

心の教育実践事例集



山口県教育委員会

心の教育実践事例集

平成27年(2015年)3月
山口県教育庁学校安全・体育課

はじめに

「子どもたちに必要とされる豊かな人間性とは、美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異なるものへの寛容などの感性及び道徳的価値を大事にする心であるととらえられる。このような心の育成を図るのが心の教育であり、その基盤としての道徳教育なのである。」（小学校学習指導要領解説 道徳編より）

子どもたちを取り巻く環境が変化する中、不登校やいじめ、暴力行為、自殺など、多様化、複雑化、深刻化する生徒指導上の課題を克服していくためには、家庭や地域と一体となって、子どもたちに望ましい生活習慣や、正しく判断し主体的に行動できる規範意識、豊かな人間性を育むことが必要であり、「心の教育」の一層の推進が求められています。

このため、県教委では、子どもたちのよりよい育ちと学びに向け、平成23年度に「心の教育推進の手引き」を発行し、子どもたちの心を「ひらき、みがき、つたえあう」活動の具体的な指導例を示しました。また、平成24年度に、教職員のための指導資料「子どもたちの規範意識を育むために ～きまり 節度 礼儀～」を発行し、心身の成長の過程に即して、子どもたちの規範意識を育むための具体的な例示をしてまいりました。

このたび、県内の小・中学校から、これらの指導資料を基にした数々の実践事例を御提供いただき、「心の教育実践事例集」として取りまとめました。

本事例集では、学校における「日常の教育活動」や「道徳・特別活動の充実」、「体験活動の充実」に係る実践事例に加え、「全教育活動を通じた取組」や「連携の推進」に係る実践事例も多数掲載しております。各学校におかれましては、是非これらを参考にされ、家庭や地域とも連携しながら、豊かな心を育む教育を一層推進いただきますようお願いいたします。

平成27年3月 山口県教育委員会

1 日常の教育活動の充実

- | | | |
|-------------------------------------------|---------------|----|
| (1) 心を育てる「立腰教育」 | 柳井市立余田小学校 | 2 |
| (2) 読書活動の充実から心の教育をめざして | 周防大島町立安下庄小学校 | 4 |
| (3) 「ぽっかぽか言葉」強調週間 | 周防大島町立久賀小学校 | 6 |
| (4) 集中力・主体性等を養う「立腰教育」 | 田布施町立東田布施小学校 | 8 |
| (5) 豊かな人間関係を育む「あいさつ運動」 | 平生町立平生小学校 | 9 |
| (6) 心をみがく「素読」「愛校当番」 | 周南市立德山小学校 | 11 |
| (7) 豊かな人間関係づくりに向けた日常の取組 | 防府市立松崎小学校 | 13 |
| (8) 「 ^{まる} 〇」です。～児童の自己肯定感を高める取組～ | 宇部市立岬小学校 | 15 |
| (9) 異学年交流（ペア学年 教室配置 縦割り班活動） | 山陽小野田市立小野田小学校 | 17 |
| (10) 縦割り班活動を中心とした温かい人間関係づくり | 長門市立仙崎小学校 | 19 |

2 道徳・特別活動の充実

- | | | |
|------------------------------------------|-------------|----|
| (1) 道徳「ぼく・わたしのたん生」 生命尊重 | 周防大島町立城山小学校 | 22 |
| (2) 学び合いの中で表現力を高めていく道徳の授業 | 田布施町立田布施中学校 | 24 |
| (3) 川下小ニコニコプロジェクト | 岩国市立川下小学校 | 26 |
| (4) 生活ジュニアの旅 ～「かかとピタッと」を合い言葉に～ | 下松市立久保小学校 | 28 |
| (5) 児童会を主体として取り組む「赤スマイル運動」 | 美祢市立赤郷小学校 | 29 |
| (6) MVP（光井中・ボランティア・プロジェクト）活動 | 光市立光井中学校 | 31 |
| (7) 生徒会が中心となった「いじめ ^{ゼロ} 委員会」の取組 | 長門市立深川中学校 | 33 |
| (8) 第4学年「二分の一成人式をつくろう」 | 田布施町立麻郷小学校 | 35 |
| (9) 行事を通して心を培う ～ミュージカル制作の取組～ | 下松市立下松中学校 | 37 |
| (10) ストレスへの対処と心の健康（アサーショントレーニング） | 美祢市立於福中学校 | 39 |

3 体験活動の充実

- (1) 漁村における民泊体験活動……………田布施町立麻里府小学校 42
- (2) よりよい人間関係づくりをめざした体験活動……………田布施町立田布施西小学校 44
- (3) 全校 Being・教職員 Being (A F P Y)……………防府市立牟礼小学校 46
- (4) 総合支援学校の子どもたちと共に学ぶ……………田布施町立城南小学校 48
- (5) ふれあい交流会……………平生町立佐賀小学校 50
- (6) 豊かな心を育む体験活動～道徳的実践力を育てる～……………平生町立平生中学校 52
- (7) 中須地区伝統芸能「杖踊り」の継承活動……………周南市立中須中学校 54
- (8) 高瀬峡清掃活動……………周南市立和田中学校 56

4 全教育活動を通じた取組

- (1) 優しさや思いやりの心を育む教育活動……………防府市立中関小学校 58
- (2) 「聴き合う・つながり合う・学び合う」豊かな人間関係づくり……………下関市立山の田小学校 60
- (3) 絆プロジェクト……………萩市立明木小学校 62
- (4) 挑戦が育む「心」……………下関市立菊川中学校 64

5 連携の推進

- (1) 言葉に関わる取組を中心とした幼小中の連携……………和木町立和木中学校区 68
- (2) 15年間で育てたい秋穂の子ども像……………山口市立秋穂中学校区 70
- (3) 保育園・小学校・中学校の課題共有……………萩市立むつみ中学校区 72
- (4) 掃除に学ぶ～小中学校合同によるトイレ掃除～……………柳井市立大畠中学校区 74
- (5) 小中・保護者(家庭)との連携によるあいさつ指導……………上関町立上関中学校区 76
- (6) 9年間で子どもたちを育てる共通実践リーフレットの作成……………光市立室積中学校区 78
- (7) 小中連携による生徒指導の取組……………防府市立牟礼中学校区 80
- (8) 児童生徒に自信とやる気を育てる……………阿武町立阿武中学校区 82
- (9) 周南市における生徒指導の水準……………周南市教育委員会 83

1 日常の教育活動の充実

- (1) 心を育てる「立腰教育」
.....柳井市立余田小学校… 2
- (2) 読書活動の充実から心の教育をめざして
.....周防大島町立安下庄小学校… 4
- (3) 「ぼっかぼか言葉」強調週間
.....周防大島町立久賀小学校… 6
- (4) 集中力・主体性等を養う「立腰教育」
.....田布施町立東田布施小学校… 8
- (5) 豊かな人間関係を育む「あいさつ運動」
.....平生町立平生小学校… 9
- (6) 心をみがく「素読」「愛校当番」
.....周南市立德山小学校… 11
- (7) 豊かな人間関係づくりに向けた日常の取組
.....防府市立松崎小学校… 13
- (8) 「まる〇」です。～児童の自己肯定感を高める取組～
.....宇部市立岬小学校… 15
- (9) 異学年交流（ペア学年 教室配置 縦割り班活動）
.....山陽小野田市立小野田小学校… 17
- (10) 縦割り班活動を中心とした温かい人間関係づくり
.....長門市立仙崎小学校… 19

(1) 心を育てる「立腰教育」

柳井市立余田小学校

○ 実践の特徴

「けじめの心」と「思いやりの精神」を培う立腰教育をチャレンジ目標の中核に据えることにより、児童・教職員・保護者が全教育活動のつながりと目的や価値を意識しながら教育実践に当たった取組

1 実践のねらい

本校の教育をより充実したものにするために、森信三先生の「心身相即」（心を立てようとするれば先ず身を起こせ）の教えから成る「立腰姿勢」を追加目標として取り入れることによって、「やる気」「根気」を培い、「何事にも強い意志をもって取り組む児童」・「自ら主体的に活動する児童」を育てていきたい。

また、「立腰教育」に取り組むことによって、集中力を養い、学力向上に努め、節度ある生活態度を身に付けさせたい。

この定着が、「けじめの心」と「思いやりの精神」をもった本校のめざす児童像「よく学び・たくましい子」へとつながっていくことと考える。

2 実践の内容

(1) 「三つの実践」の推進

- ①あいさつは自分から先にしよう
- ②へんじは「ハイ」とはっきりしよう
- ③はきものはそろえ、イスは入れよう

<留意点>

- 教師が率先し、児童とともに習慣化する。
- 靴箱の靴や上履き、トイレのスリッパをそろえる。
- 例外を作らず、生活の中で一人ひとりが実践を続ける。



三つの実践

一、あいさつは、
自分から先にしよう

二、へんじは、
ハイとはっきりしよう

三、はきものはそろえ、
イスは入れよう

(2) 立腰タイム

①学級での取組

- 朝の会、帰りの会の前
 - ・学級当番の合図によって行う
 - ・教師も一緒に行う
- 授業開始前
 - ・学級当番の合図によって行う
 - ・教師も一緒に行う

②全校、学年での取組

- 各集会時、委員会等の話合いの前
 - ・進行係の合図によって行う
 - ・教師も整列して行う

○「立腰姿勢」の指導

(3) 環境づくり

①立腰指導のための掲示物

- ・各教室前方・体育館に「三つの実践」「立腰姿勢図」「立腰姿勢・立腰の功德十ヶ条」の掲示
- ・職員室前に「職場三原則」の掲示

立腰姿勢

足のうらをゆかにピタリとつけ
腰骨をシャンと立てましょう
おなかに力をいれ
肩や胸に力をいれないで
あごをひきましよう
すばらしい姿勢です
元気な体のもです
頭がすんできます
あなたのががままに勝てる姿勢です
あなたじしんをみなおせる姿勢です
きびしい世の中をのりきる姿勢です

- ・廊下等に「三つの実践」を掲示
- ②あいさつ運動の実施
 - ・児童会等による活動
 - ・委員会活動による活動
- ③履き物をそろえる
 - ・靴箱の整備、トイレのスリッパの整頓、委員会等の活動
- ④立腰姿勢の確認
 - ・教師による立腰姿勢の確認
 - ・委員会活動等での調査

職場の三原則

一、場を清める
 二、時を守る
 三、礼を正す

立腰の功德十ヶ条

① やる気がおこる。
 ② 集中力がでる。
 ③ がまんする力がつく。
 ④ 頭がさえる。
 ⑤ 勉強がたのしくなる。
 ⑥ 成績がよくなる。
 ⑦ 動きがすばやくなる。
 ⑧ バランスがよくなる。
 ⑨ おなかのはたらきがよくなる。
 ⑩ スタイルがよくなる。

3 成果と課題

「立腰教育」の実践継続の成果と課題を、以下のように捉えている。

成果と認められる点

- 進んであいさつをする児童が増えた
- 気持ちの切り替えが早くなった
- よりよい人間関係や環境づくりを児童自身が意識するようになった
- 全教職員の開発的生徒指導に対する指導意欲の向上が図られた

課題として挙げられる点

- ▲取組への意欲の個人差が大きい
- ▲児童の主体性の伸長にまではとどいていない
- ▲家庭における実践継続の困難さ
- ▲「型を身に付けさせる指導」から「心を育てる指導」への転換

成果として認められるものの多くが、児童・教職員のみならず、保護者や地域からの声としても上がってきていることから、取組における成果が児童の具体的な姿として現れていると考える。また、教職員自身が立腰教育の理念に基づいた視点から、これまでの本校の教育活動を見直すとともにその目的や関連性を再考し、自らの実践を価値付けながら日々の教育活動に取り組もうとする意識をもてたことも大きな成果であると考えている。

今後は、取組への意欲の個人差への対応や家庭における実践継続への手立てを考えるとともに、より具体的かつ積極的な取組を実践することによって、「型の立腰教育」をより児童の主体性や豊かな心を育むことのできる「心の立腰教育」へと変容させていくことが課題であると考えている。



【全校学活「余田っ子 挨拶運動」】



【全校学活「余田っ子 清心運動」】

(2) 読書活動の充実から心の教育をめざして

周防大島町立安下庄小学校

○ 実践の特徴

読書活動の充実に向けた黙読の時間、選書会、読書マラソンの実践



<黙読の時間>

1 ねらい

- ・読書習慣を身に付けさせることで、子どもたちの知識や感受性を豊かにする。
- ・静かな読書で一日のスタートを切ることで、授業に集中して臨めるようにする。

2 内容 毎週火曜日の「ミニモニの時間」(8:05~8:20)

(1) 全校で一斉に始めて、同時に終わる。

「ふるさと」のオルゴール曲を始まりの合図にする。

(2) 本は子ども自身が事前に選んでおく。その時間内は他の読み物と取り替えない。

(3) 教員も一緒に読む。

(4) 感想文は書かない。

3 黙読の時間を振り返って

- ・初めは読みたい本を見つけられずに、立ち歩く児童や「静かすぎていや」と言ってカタカタ音をさせる児童、自由帳に絵を描く児童もいたが、静かに着席できたことを褒めながら少しずつ黙読ができるよう指導していった。
- ・1学期の終わり頃には、オルゴール曲が鳴り始めると自然に着席して黙読ができるようになった。
- ・全校での取組なので、学校中に静かな空気が流れるようになった。
- ・静かな気持ちで朝の会を迎え、1校時の授業も穏やかに進められるようになった。
- ・感想を聞いたり、読書内容をあまり制限しなかったりしたためか、児童はストレスを感じず安心して黙読の時間に臨むことができた。
- ・自分に合ったおもしろい本に出会い、そのシリーズの本を読みあさる児童も出てきた。
- ・クイズの本や、発達段階に合わない本を読む児童もいるので、少しずつ選ぶ本の指導も行っていきたい。

<選書会>

1 ねらい

- ・ブックトークを聞いて、本に興味をもたせる。
- ・自分たちが選んだ本が図書室に入るという喜びを感じさせ、本を借りたいという意欲をもたせる。

2 内容

(1) 子どもの本の専門店から本を数百冊運び、展示する。

(2) 横山眞佐子さんのブックトークを聞く。

- (3) 展示している本から、自分が読みたい本に付箋を付ける（一人3冊）。
 (4) 人気のあった本を購入する。



横山眞佐子さんによる
ブックトーク



選書の際、
座り込んで読み始める



好きな本に
付箋を付ける



貸し出し開始の日
図書室は大賑わい

- 3 選書会を振り返って
- ・体育館に400冊も新しい本が並べられ、その中で開催したブックトークに、子どもたちは目を輝かせていた。
 - ・貸し出し開始の日は、廊下で図書室が開かれるのを待つ児童がたくさんいた。
 - ・人気のある本は、子ども同士で借りる順番を決めて読んでいる。

<読書マラソン>

- ねらい
自分が読んだ本の記録を残すことで、読書続ける励みにし、目標冊数の本を読破する達成感を味わわせる。
- 内容
 - (1) 毎月、目標冊数またはページ数を決める。
 - (2) 読書マラソンカードに「本の名」などを記入する。
 - (3) 月末に、目標達成できた児童にミニ賞状を渡す。

○ 成果と課題

- ・黙読の時間は成果が顕著に表れ、子どもたちがゆったりとした気持ちで落ちついた学校生活をスタートさせるために大変効果があった。
- ・選書会は、読書意欲を高める環境を整備するために効果があった。
- ・読書マラソンは、読書量を確保させるために行ったが、他の教育活動に時間をとられ、なかなか読書を記録することができないことが現状である。
- ・読書活動は、継続して取り組むことで少しずつ成果が表れると信じて、以上の活動を続けていきたい。

(3) 「ぽっかぽか言葉」強調週間

周防大島町立久賀小学校

○ 実践の特徴

言葉遣いに関するチャレンジ目標の具現化に向けた児童会主体の取組と家庭との連携

1 実践のねらい

本校の平成25年度のチャレンジ目標は、「ことば、そうじ、歌声」である。本校ではチャレンジ目標の具現化をめざし、学期に一度、児童の実態に即して強調週間を設定している。

1学期は、人間関係づくりに特に関係している言葉遣いを取り上げ、運営委員会を中心とした児童主体の活動と家庭との連携を通して心の教育を推進していくことにした。

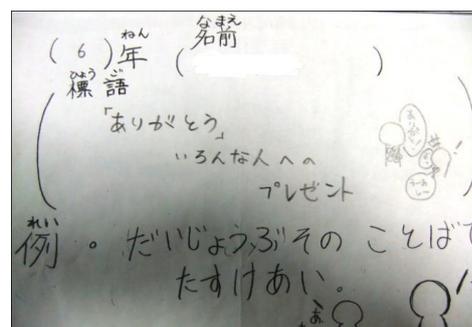
2 実践の内容

(1) 期間 平成25年度6月17日(月)～6月21日(金)

(2) 方法 児童の主体的な活動・・・ぽっかぽか標語の募集・表彰(運営委員会)
児童の活動と家庭との連携・・・がんばりカードの実践

① ぽっかぽか標語の募集・表彰

本校では運営委員会を中心として「あいさつ運動」を継続してきている。その運営委員会を中心に今回は「ぽっかぽか標語」の募集を初めて実施した。6月の全校朝会での呼びかけから、審査後の表彰までを見通し、児童自らの手で実施した。特に審査では、運営委員会のメンバーだけでなく、教職員の意見を聞いてまわり、よりよいものを選出しようと心がけた。



(最優秀賞) 『ありがとう』 いろいろな人への プレゼント(6年A児)

(優秀賞) うれしいな いつも笑顔で ありがとう(6年B児)

() 『だいじょうぶ?』 その思いやり 大切に(5年C児)

② がんばりカードの実践

がんばりカードでは、保護者との連携を考え、次のような便りを生徒指導だより「ニコ・キラ・グン!」に掲載し、協力をお願いすることとした。

「ぽっかぽか言葉」強調週間について

本校では、各学期にチャレンジ目標に関わる強調週間を設定し、その目標に近づく活動に取り組んでいます。今年度のチャレンジ目標は「ことば・そうじ・歌声」となっていて、1学期の強調週間では「ことば」について実践することになりました。周りの人とのより良い人間関係を築くためにもコミュニケーション能力を高めていくことが大切になり、日々の取組が子どもたちの将来に生きて働く力となります。そこで先週から運営委員会の児童が「ぽっかぽか言葉標語募集」を始めて、強調週間につなげてきました。

17日から21日までの1週間、がんばりカードをもとに子どもたちが取り組んでいきます。保護者の皆様もご家庭での様子を見られ、言葉について励ましのお言葉や、ご家庭での様子をカードにご記入いただくと幸いです。週末にカードを持ち帰りますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

がんばりカードの項目として、

- ・授業中、友達を「〇〇さん」と呼ぶことができた。
- ・友達を傷つける言葉を使わなかった。
- ・気持ちのよいあいさつができた。

の3項目と、家でのめあてとして、自分が決めたり、家族と話し合って決めたりした項目に取り組んだ。

1年生は、初めての取組となり、多くの児童が「おはようとおやすみのあいさつができた」というめあてとしていた。自分の反省だけでなく、家族からの励ましの言葉や教師からのコメントを入れることで、自分の周りの人を意識し、取り組むことで成果を高めようと試みた。

ことば きょうちようしゆうかん
「ぼっかぼか言葉」 強調週間がんばりカード

おん ねん 名前 / 年 名前

☆めあてを決めて、しっかりとがんばりましょう。☆☆

項目	17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)
授業中、友達を「さん」と呼ぶことができた。	○	○	○	○
友達を傷つける言葉を使わなかった。	○	○	○	○
気持ちのよいあいさつができた。	○	○	○	○
(家でのめあて) 「おはよう」と「おやすみ」が いえた	○	○	○	○

◎・・・よくできた ○・・・できた △・・・がんばろう

おうちの人より (心が温まる言葉があったら合わせて)
◎がまいにあってすずきで
これからはずーとつけてい

反省 感想
よくできた

【おうちの人より】
(心が温まる言葉があったらあわせて教えてください)

「おさらあらうのてつだおうか？」とこえを
かけてくれましたね。いつもありがとう。これ
からも、こまっているひとがいたら、きち
んとこえをかけてあげてくださいね。
おかあさんより

【おうちの人より】
(心が温まる言葉があったらあわせて教えてください)

こまっているひとやげんきのないひとをみ
つけたら、すずんでやさしいことばをかけ
られるようなひとになってください。

3 成果と課題

「ひとつのことばでけんかして ひとつのことばでなかなおり・・・」2年前から、各教室に北原白秋作の『ひとつのことば』という詩が掲示してある。本校の課題の一つである「言葉遣い」は、今回の取組だけで解決できるものではない。しかし、同じ視点をもって、児童同士が、児童と教師が、そして児童と家族が日々の生活を送ることで、時間はかかっても少しずつ解決に近づくのではないかと願っている。

今後の課題としては、今回のようにできるだけ児童主体による取組を増やしていくことが大切であると考えます。つまり、教師や家族から言われてではなく、より主体的に、自分の課題として意識していくことができるようになってほしいということである。

また、今年度から本校はコミュニティ・スクールという立場で、地域社会との連携も重要になってきている。地域素材を掘り起こし、家庭や地域の教育力をうまく生かしながら、今後も心の教育の推進をしていきたいと考えている。

(4) 集中力、主体性等を養う「立腰教育」

田布施町立東田布施小学校

○ 実践の特徴

腰骨を立てることで、集中力、主体性等を養う「立腰タイム」の実践

1 実践のねらい

- (1) 正しい姿勢の感覚をつかむことにより、集中して人の話を聞くことができるようにする。
- (2) 腰骨を立てることにより、主体性を養い、毅然とした態度で行動できるようにする。
- (3) 詩の朗唱をすることにより、自己教育力を養う。
- (4) 静寂の中で瞑目(めいもく)し、自分の言動を振り返ることができるようにする。
- (5) 立腰の姿勢が全ての内蔵の働きを活発にすることを知り、自ら健康の増進に努めることができるようにする。
- (6) 集中力と持続力を養うことで、伝統の立志の精神をささえる。

2 実践の内容

- (1) 立腰タイムを設けて全校で一斉に実施する。
- (2) 月2回は体育館、毎週火・木曜日は各学級で、5分間、静座・瞑目をし、立腰の詩の朗唱を行う。
- (3) 授業中における椅子に座っての立腰、立った姿勢での立腰の定着も図る。
- (4) 静座時の腰骨の立て方は、岡田式静座法(岡田虎二郎)による。
 - ・土ふまずを深く重ねて座り、膝を少し開く。
 - ・尻をうんと後に出し、腰骨は少し痛いくらいに反らせて下腹を前に出す。
 - ・片方の親指を握る形で両手を組み、軽く下腹につけてももの上に置く。
 - ・首は、まっすぐにしてあごを引き、目を軽く閉じる。
 - ・頭のとっぺんで天井を突き上げるようにして、肩をぐっと下げる。
 - ・上体をやや前に倒し、下腹に力を入れる。

3 成果と課題

「立腰教育」とは、元神戸大学教授 森信三先生が昭和30年頃から提唱された、腰に注目した身構え、気構えの教育のことである。本校では、立志とともに、昭和60年度から本校教育の基盤に据えて教育活動を進めている。

さて、立腰タイムにおいては、静座・瞑目・詩の朗唱を通して、児童には、自己啓発、集中力、持続性、耐性、内省、自律等が養われている。また、授業においては、「腰骨を立てましょう」「はいっ」の号令、返事により、学習に対する気構え、意欲が高まり、45分間腰骨を立て続けることで、集中力、主体性、自律等が培われている。今年度より、「腰骨を立てて座る」「手は、指先をそろえて真っ直ぐ挙げる」等「授業中の7つの約束」を児童に示し、振り返りカードによって成果を検証しているが、まだ十分定着しているとはいえない。立腰タイム時の静座についても、正しい静座法を繰り返し指導していく必要がある。



(5) 豊かな人間関係を育む「あいさつ運動」

平生町立平生小学校

○ 実践の特徴

児童会活動や地域連携による「あいさつ運動」の実践

1 実践のねらい

本校は、豊かな緑に囲まれた環境にあり、子どもたちは明るく元気であるが、基本的な生活習慣が身に付いていない、学業に集中できない、コミュニケーションスキルが未熟であるなどの理由で、学校での学習や生活が充実したものとなりにくいという面が見られる。

そこで、学校は豊かな心と人や社会と関わる力を育む場であるという全教職員の認識のもと、チャレンジ目標を『進んであいさつ・だまってそうじ・読書年間30冊』として、まず進んで気持ちのよいあいさつをして心を通わせ、人とつながり合うあいさつをすることによって学校生活を明るく充実したものにしようと取り組んできた。

2 実践の内容

(1) 全校、全学級での共通理解

本校のチャレンジ目標の一つである『進んであいさつ』について、始業式や学級開きの場で、あいさつはコミュニケーションの始まりであることや気持ちのよいあいさつについて子どもたちに意識付けをするとともに、道徳の時間や毎月の全校朝会、教室での朝の会などの話題に取り上げ、あいさつについて考え、振り返る機会を大切にしてきた。

(2) 生活安全委員会の活動

毎朝、生活安全委員会の子どもたちが黄色いベストを身に着けて、交代で児童玄関の前に立ち、登校してくる子どもたちと「おはようございます」と明るく大きな声であいさつを交わし迎える。さらに、始業少し前には、校舎内の廊下をぐるっと一周しながら、廊下を歩いている子どもたちや各教室で朝の準備をしている子どもたちに「おはようございます」と元気な声で呼び掛けている。

当初は、上級生にあいさつをされてからあいさつをしていた低学年の子どもたちなども、委員会の子どもたちの黄色いたすきが見えると我先にと窓に向かって駆け寄り、大きな声であいさつをする姿が見られるようになった。





(3) 「明るいあいさつ週間」の設定

毎月「明るいあいさつ週間」を設け、期間中は毎日子どもたち一人ひとりが「あいさつ元気カード」の項目にチェックしながら自分のあいさつを振り返ることができるようにしている。それにより、学級担任も一人ひとりのあいさつの様子を把握し、登校してくる子どもを教室で迎え声を掛けている。また、学級活動であいさつを取り上げて、子どもたち同士のよいあいさつを称賛したり、道徳

の授業であいさつに関わるものを取り上げながら輪が広がるようにしたりしている。

また、登校班の班長と地区担当の教員が登校の際のあいさつの振り返りの場を定期的に設けている。

(4) 地域ボランティアとの連携によるあいさつ運動

毎月第一月曜日の朝は、校門前で地域の方によるあいさつ運動が行われている。この活動は、数年前から継続して行われており、地域の方も積極的に参加してくださっている。この日は、日頃見慣れた地域の方々の優しい笑顔とあいさつを楽しみにして登校し、子どもたちも「おはようございます」と元気にあいさつをしている。



3 成果と課題

「豊かな人間関係」とは、人と関わることが楽しいと感じ、進んで交流し、思いを共有して学びや活動ができることである。その第一歩として、あいさつは、日常での心のふれあいを充実させるものとして大切である。取組の成果として、4月当初に比べると進んであいさつができるようになったと感じている子どもや登下校の際に地域の方にも進んであいさつする子どもが増えてきている。あいさつをしてもらって嬉しかったから自分もしたいなどの感想がみられ、気持ちよく朝のスタートができるようになってきている。また、学校だけでなくPTAが中心となり、家庭でも保護者が子どもたちと一緒に取り組む機会を作っている。これからも、学校と家庭、地域との連携をさらに深め、日々の学校生活や学級づくりを基盤にして、心のふれあい活動の基本となる「あいさつ」を推進し、豊かな人間関係を育んでいきたい。

(6) 心をみがく「素読」「愛校当番」

周南市立徳山小学校

○ 実践の特徴

本校の伝統的な教育活動である「素読」「愛校当番」を通じた心みがき

《素読》

1 実践のねらい

素読資料としては、古今東西に通じ、しかも日本人の心の糧となり、21世紀を生きる児童が成人したときに心の深く深く燃焼することが期待できるものから精選して与え、触れさせる機会とする。

児童期におけるこの朗唱は、豊かな心情を育て温かい人間関係を培う心の糧となるように日々実践させる。

2 実践内容

朝の「鳴鳳タイム」で年間計画に沿って、本校オリジナルの素読集（三集）を各自が手にして、各クラスで毎日朗唱する。

全校素読（年3回）を計画し、全校で一緒に朗唱する機会をもつ。

3 成果と課題

本校の素読指導は、昭和53年から実施されている。平成17年度から「豊かな心と豊かな言語感覚を育てること」を目的として、改めて指導方法・資料について見直しを行い、実施してきた。平成23年度には第3集を発行するに至った。

素読を通して心に残る言葉、先人の生き方を学ぶのだが、児童だけでなく職員自身の学びの場にもなっている。

各クラスから素読の朗唱の音が響くのが本校の朝の光景の一つとなってきた。

高学年は、下の学年の教室からの朗誦を耳にし、下学年は上の学年の朗誦を互いに耳にすることで、いつしか声の調子や呼吸の取り方を伝え合っている。

年3回行っている「全校素読」は日頃の成果を発揮する場となっている。

全校素読は全体練習の時間とはっていない。しかし、700名近い児童が息を揃える、つまり心を揃えることが自然とできる環境がある。この高められた意識を維持できているのも大きな成果ではないだろうか。



《愛校当番》

1 実践のねらい

毎朝、学校の内外を掃除することにより、奉仕の心を育て、徳山小学校の美しい朝の光景をつくり続ける。

本校の伝統となっている愛校活動に児童とともに全教職員が参加することで学校や地域を愛する心をもたせる。



2 実践内容

毎朝登校後 5, 6 年生が各クラス単位で、校舎内の拭き掃除、学校周辺の歩道の清掃に一週間交替で取り組む。

3 成果と課題

徳山小学校の伝統の一つとして、朝の愛校当番活動を続けている。これが 50 年以上は続いている本校の朝の姿だ。

本館の掃除は「三拍子ぶき」で、両手を重ね一心に力を込めて拭きあげていく。すると、その跡は白い線となって残っていく。安易にこの白い線の跡を残すことは不可能だ。何度も何度も拭き上げていくうちにその跡を残す拭き方を身に付けていけるものなのだ。つまり、子どもたちは自ずと無心の境地で一心に心をみがく体験していることになる。

歩道の清掃は、四季や天気に応じて木々の落ち葉との格闘でもある。春の桜、風に舞う落ち葉、冬の寒さ、そして雨にぬれて地面に貼りついた落ち葉。慣れない竹ぼうきに苦勞の連続だが、いつしかそれは達成感や喜びへと変わっていく。その時々季節を感じ、行き交う人々に挨拶をしているうちに、気持ちのよい朝を提供している自分に気づき始めているからだ。大人だけでなく高校生までもが挨拶をしてくれるまでになっている。

挨拶に自信のなかった児童も、いつしか挨拶を返されていくうちに、温かくなっていく自分の心を感じていき、自然に挨拶ができるようになってきている。1年生から4年生は高学年の姿を見ながら、自然と自分たちの出番に備えている。

最近では、月曜日の朝、地域ボランティアの方々と一緒に歩道の清掃活動に取り組んでいる。自然と挨拶を交わし、ほうきの取り扱いなどを通して地域の方々と触れ合う機会となっている。

歩道の清掃方法にも「型」があり、それを守り続けることで先輩達の思いや願いを考える機会となっている。それがいつしか「学校を知る」つまり「愛校の精神」を学ぶ機会ともなっている。また地域の方々からはその変わらない姿に学校教育への期待とともに、惜しみない協力をしていただいている。

しかし、課題もある。多くの伝統を守って行くには、その意義を理解して実践していくことが教職員にも求められる。

児童だけでなく、教職員にも愛校の精神をもって師弟同業して初めて効果が出てくるものである。志気をつなげていくことが求められる。



(7) 豊かな人間関係づくりに向けた日常の取組

防府市立松崎小学校

○ 実践の特徴

チャレンジ目標達成に向けた取組や特別活動、学校生活の様々な場や機会を通じた豊かな心の育成

1 実践のねらい

自ら考え、判断し行動できる子（相手の気持ちを思いやれる子・きまりを守る子・豊かにかかわり合う子）をめざし、教職員が共通理解し、児童一人ひとりの心に問いかけたり、心を耕したりしながら美しい心を育てていく。

2 実践の内容

(1) 豊かな人間関係づくりに向けて

① あいさつ運動

全教職員が共通の課題意識をもち、「心を伝えるあいさつ・返事・掃除」に取り組んでいる。あいさつについては、児童生活委員会を中心に、毎朝各教室を回り、「大きな声であいさつを返してください。おはようございます。」と呼びかけたり、登校時に校門に立ち、あいさつ運動をしたりするなど、積極的な活動を継続している。また、そのときの様子を昼の放送で紹介し、意識付けも図っている。



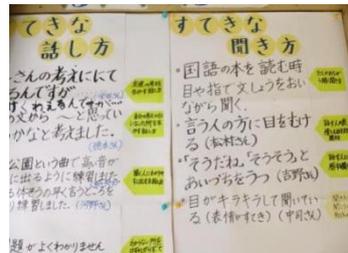
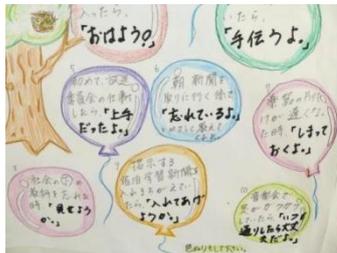
② 縦割り班活動

異学年の交流を深め、人を思いやる心を育むことをねらい、縦割り班活動に取り組んでいる。児童集会活動の中での交流だけでなく、年8回のなかよし給食を計画し、なかよし班でおべんとう給食を食べたり、掃除時間をカットした長い昼休みを一緒にふれあったりしながら楽しく過ごしている。また、活動後は、下級生は喜びや上級生への感謝の気持ちを、上級生はお世話ができてよかったという達成感や成就感などを互いに書き、それを職員室前掲示板に掲示している。感想を交流することで、より相手を思い、主体的に行動する児童の育成につなげていきたい。



③ 自分や相手を大切にす言葉遣い

相手を思いやる心を育てる基本は、相手の存在を認めることである。丁寧な言葉遣いを心がけ、お互いに相手のことを大切にしたいという意識させるために、計画集会委員会が中心となり、「ここにこ言葉集め」をした。各学級ごとに、言われて嬉しかった言葉を終わりの会で振り返ることで、言った児童も言われた児童も嬉しさや温かさを感じていた。



第1章 日常の教育活動の充実

(2) ルールやマナーを守ることにについて

公共物を大切にすること、他人に迷惑になる行動はしないこと、きまりを守ること等は、学校生活を円滑に営むための大切な心構えである。様々な場において集団の規則や遊びの中でのきまりが守れているだろうかなど、自らの行動を客観的に振り返り、自分を反省したり、物事の是非について考えさせたりしている。

また、給食室へ向かう廊下での譲り合いは日常的に見られる光景である。「お先にどうぞ」「ありがとうございます」の言葉や、きちんと整頓されているトイレのスリッパに子どもたちの心の育ちを感じている。



(3) 道徳の時間の充実に向けて

児童が、自分の考えをしっかりと表現し、話し合い活動で考えを深めることができるよう、道徳教育の要である道徳の時間の充実に努めている。一人一授業公開の後は、授業後検討会を実施しているが、道徳の授業の場合、発問の工夫と指導方法の工夫について改善を図っている。

また、道徳コーナーを新設し、資料や授業の流れ、児童の振り返りを掲示することで、児童相互や、保護者への情報発信の場とするとともに、道徳的雰囲気を生み出す環境作りにもなっている。



3階道徳コーナー



授業の流れ



心のノートを使って

(4) その他～読み聞かせ～

保護者がボランティアとして来校し、昼の放送や図書室で読み聞かせを行っている。図書室での読み聞かせは、日にちが学年ごとに決まっています、児童は楽しみに待っている。



3 成果や課題

縦割り班活動やグループ活動などを通して、児童のかかわりが学年の枠を越えて深まっていった。なかよし給食当日だけでなく、日常的に低学年が高学年に話しかけたり、高学年が優しく手をつないでいる姿を見て嬉しく思う。

今後も、自分や相手を大切にすることを育て、児童が安心して発言できる雰囲気を大事にしていきたい。そして、トイレのスリッパを揃える、校内の小さなごみをそっと拾うなど、日常での何気ない行動の中に思いやりの心が溢れる学校にしていきたいと思っている。

(8) 「まる」です。～児童の自己肯定感を高める取組～

宇部市立岬小学校

○ 実践の特徴

子どもたちのプラス面を積極的に評価し、価値付ける取組

1 実践のねらい

児童のちょっとしたがんばりや当たり前前を当たり前前にできることに価値付けをすることで、児童自身が自己肯定感をもって学習や生活に前向きに取り組んでいくことをねらっている。気になる行動を指摘したり指導したりするだけではなかなかやる気が起こらない児童も、ちょっとしたがんばりを賞賛することで自己肯定感が高まっていくと考える。

また、この取組を全校体制で行うことで多くの場面で褒められる機会が増える。さらに、どんな行いがよいのかを日々の学校生活全体で児童に伝えることができるため、それらをモデルにして、よい行いが広がっていくとも考えられる。このような取組を通じて、児童は、ますます学習や生活に前向きになることが期待できる。

2 実践の内容

(1) 「学習・生活がんばりカード」

学習や生活態度全般において、問題行動の指導と並行して、児童一人ひとりがごく当たり前前にできていることや一生懸命励んでいること、よい行いなどをこれまで以上に教職員が積極的に評価して価値付けていく取組を始めた。具体的には、「自分からあいさつができていますね。『〇』です。」というように、担任に限らず、よい行いやがんばりを見取った教職員がその場で即時に評価するものである。

「〇」をつける小さいカードは、児童の机の角にそれぞれが貼りつけており、「〇」と言われた時に各自で書き込んでいる。そして、学年によって決められた数の「〇」がつかると、大きなカードにスタンプが押され、そのスタンプがいっぱいになると、校長室でミニ賞状としたりがもらえるという仕組みになっている。これまで数十人が台紙を持って校長室に行き、さらに「〇」を増やそうと、どの児童も前向きに励んでいるところである。また、カードがいっぱいになって校長室に来た児童を、校長が、お昼の放送で紹介していることも、児童のやる気を持続させることにつながっている。



(2)「こころいっぱい 岬っ子」

この取組は、自分や友達のがんばっている姿や行いを振り返る中で、児童同士が相互評価するものである。曜日を決めるなどして、1週間のうちに3回程度、帰りの会等を使って各自が振り返りをしている。そして、特によい行いについては、道徳の内容項目の4つの視点【「1 主として自分自身に関すること」(ぐんぐん)、「2 主として他の人とのかかわりに関すること」(ぼかぼか)、「3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」(きらきら)、「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること」(にこにこ)】に沿って、毎週木曜日のお昼の放送で紹介するとともに、昇降口に掲示している。お昼の放送では、各学年から選ばれたものを教頭がコメントを添えながら紹介していることが、児童の意欲付けになっている。

また、昇降口などに貼り出された文章や添えられているコメントを読み合うことで、友だちや自分のがんばりについて振り返ることができ、さらに、児童だけでなく、教職員や来校された保護者も足を止めて見入っているようである。



校内掲示されたもの

～ある日の

「こころいっぱい岬っ子」より～

- ・〇〇さんは、問題が解けなくて困っている人に教えたり、みんなの配り物を進んで手伝ったりして、多くの人を助けていて、すごい人だなと思いました。
- ・ぼくが、〇〇さんにプリントをわたしたら、「ありがとう。」と〇〇さんが言ってくれ、ぼくは、「どういたしまして。」と答えて、すごく心があたたかくなりました。

3 成果と課題

日常の様々な場面での評価の積み重ねによって、自己肯定感の低かった児童が自分に自信をもち、否定的な発言をあまりしなくなったのである。「『〇』です。」と言われた児童のすれ違いざまに見せる笑顔からは、大きな満足感と達成感がひしひしと伝わってくる。こうして、一人ひとりのよい行いが、次なるよい行いへと広がっていくのである。さらに、あいさつや掃除で褒められたことが、様々な学習や活動への意欲の向上にもつながっていると言える。少しずつではあるが、児童が自己肯定感を高めてきているとともに、互いに認め合い、高め合う姿も多く見られるようになってきており、休み時間にも進んで掃除をする児童や困っている児童に他学年の児童が声をかけるといった姿も見受けられる。

今後は、日々の授業や学校行事、体験活動、道徳等の指導内容の充実によって、豊かな心を培うとともに、さらに一人ひとりが自己肯定感をもって過ごせるよう、取組の充実・深化・推進を図っていきたい。また、コミュニティ・スクールとしての取組のひとつとして、「『〇』です。」の声を地域にも広げていきたい。

(9) 異学年交流 (ペア学年 教室配置 縦割り班活動)

山陽小野田市立小野田小学校

○ 実践の特徴

温かい人間関係を築く、異学年の子ども同士の関わり合い

1 実践のねらい

下学年に対して優しい態度で接することができるようになるなどの異学年交流のよさを生かして、上学年が下学年のお世話をしたり、積極的に関わる場を設定したりすることで、温かい人間関係を築き、本校の重点目標である思いやりと感謝の心を育てる。

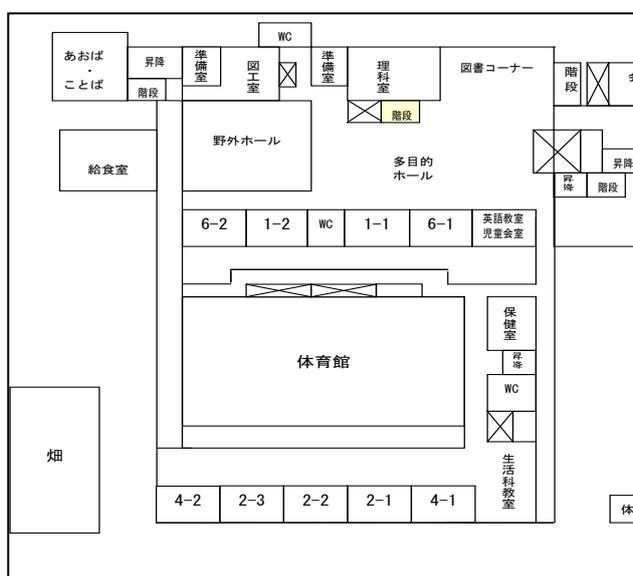
2 実践の内容

【ペア学年と教室配置の工夫】

1・6年 2・4年 3・5年をペア学年として、位置付けている。

そして、教室の配置を6・1・1・6という風に、上学年が下学年を包み込むように配置した。

ペア学年の取組としては、日々の掃除をペア学年で行い、上学年が下学年を指導しながら行っている。また、学期に数回、ペア学年で一緒に給食を食べている。



教室配置の工夫

【縦割りの班活動】

行事の中で

- 運動会ふれあい競技 (運動会)
- 一年生を迎える会等 (集会活動)
- クリーン作戦 (校区内清掃活動)

遊びの中で

- 縦割り班遊び (月1回の昼休み)

その他

- 縦割り班給食 (年1回のお弁当給食のときに)



ペアそうじの様子

児童の感想

1年児童 連絡帳の一言日記より 2月7日

今日、新しいそうじ場所になって2日目でした。
班長さんに「上手だね。」とほめられて、私は元気がわいてきました。
もっともっとがんばって、6年生になったらみんなに「こうやってするんよ。」と言ってあげられる班長になりたいです。楽しみです。
でも、ちゃんとしないと立派な班長になれないと思います。だから私は、勉強や長縄が一(ワン)で入れるようにがんばりたいです。



朝登校後の様子



日頃の子どもたちの関わり



6年児童 日記「1年生のクラスが隣でよかったこと」2月15日

私はこの1年間、1年生と教室が隣でよかったな!と思います。4月は、少し緊張して、今日から1年生の隣だからお姉さんとして、トイレのスリッパをそろえたりしていいお手本になるように心がけよう。」と思いました。

また、去年のような教室配置だと、たぶんあまり1年生と関わりがなかったし、いいところを見せられないまま卒業を迎えていたかもしれません。そして今、隣から朝の音読や歌など元気いっぱいな声が聞こえてきて逆にすごいエネルギーをもらっています。1年生のおかげで、全校の前でいいお手本ができるようになり、とても感謝しています。忙しくて、疲れているときなどに、1年生と話すとすぐに疲れは吹っ飛んでいき、いつの間にか笑顔になっています。1年生は秘密の力を持っているのかもしれない。

今回の教室配置は、大成功です!

3 成果と課題

教室配置の工夫で特に成果が見られたのは、6年と1年である。行事の時だけでなく給食や清掃、休み時間など日常の生活で、6年生は1年生のお世話をすることにより、思いやりの心や高学年としての自覚が高まり、成長が見られた。一方、1年生は、6年生に対して感謝の気持ちやあこがれの気持ちをもつようになった。また、見よう見まねで係の仕事を工夫したり、学級の集会を盛り上げたりする姿も見られた。

課題としては、1年・6年がペアを作っているのですが、残りの学年差が小さくなってしまいうことである。また、2年・4年のペアは、次年度もう一度同じペアになってしまうことなどがあげられる。

(10) 縦割り班活動を中心とした温かい人間関係づくり

長門市立仙崎小学校

○ 実践の特徴

異年齢集団の活用により、相手の立場で物事を考えようとする態度や成長の過程に即した社会性、コミュニケーション能力を養うことを意図した取組

1 実践のねらい

- (1) 異年齢集団による様々な活動を通して、思いやりの気持ちや相手の立場で物事を考えようとする態度を育てることにより、望ましい人間関係を築く。
- (2) 高学年は中心になって活動の計画を立てて低学年のお世話をし、中学年は高学年に協力して活動が円滑に進められるようにし、低学年は班長や上級生と一緒に楽しく活動する。このような活動を通して自主性や社会性を養う。
- (3) 様々な場面で自分の考えを相手に伝えたり、相手の思いを理解したりすることにより、コミュニケーション能力を養う。



2 実践の内容

- (1) すこやか班（縦割り班）顔合わせ、1年生を迎える会
 本年度は、1組が1～6班、2組が7～12班で編成し、学級単位での児童の活動が把握しやすいように工夫した。また、各班にはそれぞれA班とB班の兄弟班があり、全校を24班に編成している。
 年度初めに行う「すこやか班顔合わせ」では、班員の自己紹介、班の1年間のめあての決定、班写真の撮影を行い、班員の学年と名前を覚える活動を行っている。
 また、「1年生を迎える会」では、オープニング劇や1年生紹介、全校合唱、班ゲームなどをすこやか班で活動できるように工夫している。



(2) すこやか班で行う学校行事

① 秋季大運動会「大玉大決戦」

本年度から、運動会の種目の中で、「大玉大決戦」だけをすこやか班でチーム編成して行うことにした。各班長を中心に順番や作戦を考えるなど、児童が主体的に活動できるように工夫した。運動会当日は雨天のため、この競技の実施はできなかったが、参観日に改めて競技を行い、多数の参観を得て大いに盛り上がった。



② すこやか遠足

みすゞ通りや観光基地を散策しながら、遠回りをして長門市総合公園をめざして歩いた。高学年が低学年の歩く速さに合わせてあげたり、いろいろな話をしたりして楽しい雰囲気での秋の遠足になった。



長門市総合公園では、班ごとに記念写真を撮ったり、班で仲良く弁当やおやつを食べたりしてのんびり楽しく過ごすことができた。また、「班全員での集団行動」を条件にしたウォークラリーでは、1年生から6年生までの班員が協力して、ポイントを見つけたり問題を解いたりするなど楽しく汗を流すことができた。

(3) すこやか班掃除

「まじめに掃除をしよう」のチャレンジ目標の達成をめざし、本年度から学級掃除からすこやか班掃除に変更した。毎月末のすこやか班活動で、1か月の反省と翌月の掃除分担についての話し合い活動を行っている。また、毎月第3火曜日には、「一緒に掃除の日」として、学校運営協議会委員の方も掃除に参加されている。みんなで協力して掃除をしようとする姿が見られるようになってきた。



(4) すこやか班活動

本年度より、毎週火曜日の13時45分から15分間、すこやか班での活動を設けている。毎月の最終週を除いて、すこやか班で遊ぶ活動を行っており、鬼ごっこやボール遊びを中心に、楽しく活動ができています。活動を始めたころは、班員の顔がよくわからず鬼ごっこが成立しないこともあったが、自分の班の友達がどんな性格であるかも理解できるようになっている。



3 まとめ・考察

児童一人ひとりの心を豊かにするために、異年齢集団での活動を多く仕組むことにより、思いやりの気持ちや相手の立場で物事を考えようとする態度を育てようと試みた。特に高学年では下学年児童を思いやった行動をとっている姿が多く見られた。

縦割り班活動を多く仕組むことは、教師側や高学年の負担も多くなる。また、活動自体にも時間がかかってしまう。このように負担もあるが、1年間を通して同じ班で活動することにより、お互いが相手のことを考えた言動をしていこうという思いをもてるようになってきている。

2 道徳・特別活動の充実

- (1) 道徳「ぼく・わたしのたん生」 生命尊重
周防大島町立城山小学校…22
- (2) 学び合いの中で表現力を高めていく道徳の授業
田布施町立田布施中学校…24
- (3) 川下小ニコニコプロジェクト
岩国市立川下小学校…26
- (4) 生活ジュニアの旅 ～「かかとピタッと」を合い言葉に～
下松市立久保小学校…28
- (5) 児童会を主体として取り組む「赤スマイル運動」
美祢市立赤郷小学校…29
- (6) MVP(光井中・ボランティア・プロジェクト)活動
光市立光井中学校…31
- (7) 生徒会が中心となった「いじめ^{ゼロ}委員会」の取組
長門市立深川中学校…33
- (8) 第4学年「二分の一成人式をつくろう」
田布施町立麻郷小学校…35
- (9) 行事を通して心を培う ～ミュージカル制作の取組～
下松市立下松中学校…37
- (10) ストレスへの対処と心の健康（アサーショントレーニング）
美祢市立於福中学校…39

(1) 道徳「ぼく・わたしのたん生」 生命尊重

周防大島町立城山小学校

○ 実践の特徴

体験活動「赤ちゃん・お母さんとのふれあい」を生かし、生命の大切さを実感させる道徳の授業

1 実践のねらい

ゲストティーチャーの話や家族からの手紙を基に、自分はたくさんの人からかわいがられ、見守られて成長してきたことを知り、自他の生命を大切にしようとする心情を育む。

2 実践の内容 次ページ本時案による

3 成果と課題

(1) 体験活動について

本時では、体験活動を基にして道徳の授業を行ったが子どもたちが体験したことが生命の大切さに気付く良い手立てとなった。今回は体験活動として、学級活動「赤ちゃん・お母さんとのふれあい」と本時の「家族からの手紙」を取り入れたが、どちらも子どもたちの心に感動をもたらしたと感じた。

前時に行った赤ちゃんとのふれあいでは、赤ちゃんのかわいい姿を見て、「自分が赤ちゃんの時はどうなただろうか」との思いを強くもった子どもたちが多かった。家族からの手紙は本時に読んだが、最初は笑顔で読んでいた子どもたちも、次第に感動で涙ぐんでいる姿が見られた。

(2) 終末の段階での子どもたちの意識化について

指導案検討の際、家族からの手紙を読んだ後感想を書くように計画していたところ、「家族に宛てて返事を書いたらどうか」という提案がなされた。ねらいを生命尊重にしていたので、家族への返事を書くことにすると家族愛に流れてしまう恐れがあると考え、感想を書くことにした。しかし、子どもたちが感動している様子を見ると、家族への返事を書くことも効果的であると感じた。

(3) 保護者との連携について

今回、赤ちゃんを連れてきてくださったのは保護者だったが、子どもたちの素直な感想や感動している様子に触れ、「赤ちゃんを連れてきて良かった。神様から授かった命を大切に育てます。」というお手紙を子どもたちにくださった。赤ちゃんの体調や母親の都合も考慮する必要があるが、赤ちゃんとのふれあいを体験できたことはとてもよかった。

(4) 今後の課題

体験活動を生かした道徳の授業を行う場合、体験活動を設定した日に欠席した児童がいると、体験活動をした子どもとのレディネスに差ができてしまう。そこをどう埋めていけばよいか事前に考えておく必要がある。



本時案（第一次 1/1時分）

- 1 ねらい ゲストティーチャーの話や家族からの手紙を基に、自分はたくさんの人々からかわいがられ、見守られて成長してきたことを知り、自他の生命を大切にしようとする心情を育む。
- 2 準備物 赤ちゃんの泣き声、VTR、手紙、ワークシート、赤ちゃんの頃の靴
- 3 学習の展開

学習活動	○内容 ・児童の意識 ○主な発問 ・指導上の留意点、教師の支援 ◎評価【評価方法】
1 本時のめあてを知り、学級活動「こんにちは赤ちゃん」のVTRを視聴する。 ・お母さんは赤ちゃんのことを大切に思っていたよ。 ・赤ちゃんはかわいかったよ。	○赤ちゃんとお母さんが来たときのVTRを視聴して思ったことを発表しましょう。 ・インタビューや赤ちゃんと直接ふれあったことをしっかり思い出し、そのときの気持ちを発表するように促す。 ・教室に写真を掲示し、思い出す手がかりとする。 ◎赤ちゃんとの出会いを想起できたか【発表】
<p>ぼく・わたしのたん生について考えよう。</p>	
2 自分が誕生したときの家族の思いや願いについて想像する。 ○自分に対する家族の愛情 ・赤ちゃんのお母さんと同じだったにちがいない。 ・よくわからないな。 ・自分が誕生してお母さんはどう思ったのかな。知りたいな。	○みんながおなかの中にいるときや生まれたときのお母さんやおうちの人の気持ちはどうだったでしょう。 ・お母さんや家族のことを思い浮かべながら、想像する。
3 家族からの手紙を読み、感じたことや考えたことをワークシートに書き、発表する。 ○想像以上の自分に対する家族の愛情 ○友達も一人ひとりが大切な存在であること ・自分が生まれたとき家族は喜んでくれたんだ。 ・こんなにも思っていてくれたことを初めて知ったよ。	○おうちの人からの手紙を読んで、感じたことや考えたことを発表しましょう。 ・事前に家族にお願いした手紙を一人ひとりに渡し、自分が家族にとってかけがえのない存在であることを実感させる。 ・感じたこと・考えたことは、家族への手紙にしてもよいことを知らせる。 ・友達の発表を聴くことで、みんなが家族にとってかけがえのない存在であることに気付くようにする。 ◎家族からの手紙を読んで家族の思いを感じ取ることができたか【ワークシート】
4 担任の話を書く。	○小さい頃の服や靴を見せることで、大きくなった自分に改めて気付き、自他の生命尊重の気持ちが高まるように話す。

(2) 学び合いの中で表現力を高めていく道徳の授業

田布施町立田布施中学校

○ 実践の特徴

生徒が自らの体験や考えを進んで表現できるような指導方法の工夫改善をめざした校内研修の取組

1 実践のねらい

生徒に温かい人間愛の精神を育み、互いに認め合い尊重し合う態度を養うことは、学校教育の中でも極めて大切な課題である。特に、他者との交流範囲が広がっていく中学生の時期には、幼少期の自己中心性から脱却し、思いやりの心をもって人と接する姿勢を身に付けられるよう、道徳の時間を中心に学校の教育活動全体を通じて指導を行うことが重要である。

そこで、道徳の時間では、生徒が興味をもって取り組みやすい題材を通し、他の生徒との学び合いの中で自分自身を振り返らせたい。

さらに、葛藤によって生徒の思考を揺さぶり、より深く人間愛の精神や思いやりの態度について考え、自らの行動をよりよいものにしていこうとする意欲を高め、より確かな道徳的実践力をもつ生徒を育てていきたい。

2 実践の内容（道徳実践事例）

(1) 題 材 「生協の白石さん」に学ぶ（内容項目 2-(2) 思いやりの心）

(2) ねらい

「生協の白石さん」の言葉がけの工夫に込められた他者への配慮を考察することを通して、人と接するにあたって相手の立場や心情を気遣った行動を取ろうとする態度を養う。

(3) 学習過程 次ページ

(4) 表現力を高めるための工夫

「心のバロメーター」（課題に対して自分の意見を表出する尺度）を用い、それを基に発表や意見交換をさせる。

3 成果と課題

この授業を通して、生徒は白石さんの温かい人間性に思いを巡らせながら実生活を振り返り、他者との関わりについて主体的に考え直すことができた。

本校ではこの授業実践以外にも学び合いを通じた表現力の向上に努め、学力向上や豊かな人間関係づくりに取り組んできたが、確かな力とするためには、さらに継続していくことが必要である。

(学習過程)

	学習内容・活動	生徒の反応	教師の手だて (○印…評価)
導入	1 「ひとことカード」に寄せられたお客さんの要望に対して、店員の立場から回答を考える。	<ul style="list-style-type: none"> この要望なら「わかりました」で何とかなる。 お客さんの気分を損ねないよう、言葉遣いに気を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 数人の発表の後、「生協の白石さん」に寄せられた要望とその回答を紹介する。
展開	資料をもとに白石さんの回答を予想しよう		
	<p>2 資料から白石さんの回答の工夫を読み取り、実際にあった要望への白石さんの回答を予想する。</p> <p style="text-align: center;">個人での考察 ↓ グループでの意見交換・発表 ↓ 実際の回答と予想の比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> 駄洒落などユーモアを交えて回答するのではないか。 店にきて商品を買ってもらえるように話をもっていくのではないか。 お客さんの立場にたって親切になるべくわかりやすく回答するのではないか。 「御要望ありがとうございます」「申し訳ありません」などの言葉が入るだろう。 白石さんのように面白く回答するのは難しい。 <p>《思いやり》</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分の利益(仕事)」なら変な要望は無視すると思うから。 <p>《自分の利益(仕事)》</p> <ul style="list-style-type: none"> 回答しなければお客さんの気分を損ない、店に来てもらえなくなって自分が困るから。 	<ul style="list-style-type: none"> 数年前に大きく話題となり、要望とその回答が本にまでなったことを紹介し、白石さんの言葉が多くの人を惹きつけた理由に興味をもたせる。 初めに考えた自分や他の人の回答と比べさせ、白石さんの工夫に気付かせる。 グループのなかで最もよいものを発表させ、他の人の評価も併せて発表させる。 ○お客さんの立場や気持ちに配慮した白石さんの回答の工夫に気づき、予想として表現できる。 ○他の人の意見のよい点に気づき、評価できる。
終末	<p>3 白石さんの回答の真意を考え、各自の意見(ネームカード)を黒板の「心のバロメーター」上に表す。</p> <p style="text-align: center;">個人での考察 ↓ 意見の表明・理由の発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> 純粋に仲間のことを思うのなら、《思いやり》が大きい。 《思いやり》は《自分の利益》にもなるのではないか。 みんなが「白石さん」になればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を《思いやり》と《自分の利益(仕事)》に分類し、対立を明確にする。 ○自分の意見を理由とともに表現できる。
	クラスの中の「白石さん」の「心のバロメーター」を考えよう		
	4 クラスの中に白石さんのような言葉掛けができる人がいることを想像し、その「心のバロメーター」を考え、これから人に対してどう接していきたいかまとめさせる。		<ul style="list-style-type: none"> ○自らの行動を工夫して、よりよいものにしていこうとする意欲をもつことができる。

(3) 川下小ニコニコプロジェクト

岩国市立川下小学校

○ 実践の特徴

特別活動を中心に全校児童で関わる継続的な活動
ニコプロ「仲良し・掃除・命・エコ・あいさつ・きまり」

1 実践のねらい

平成22年度の代表委員会で、「今よりもっとすてきな川下小にするためにどうすればよいか」を話し合った。委員会活動や学級活動等での日常的で地道な活動が川下小を支え、魅力的にしていく重要な要素になることを確認し、「仲良し・掃除・命・エコ・あいさつ・きまり」の6つの取組テーマを決め、その総称を「ニコニコプロジェクト」（通称：ニコプロ）と名付けた。異学年による縦割り班活動（清掃活動、児童会活動、休み時間のイベント企画等）や学級活動、クラブ活動等あらゆる活動を通して、児童同士が関わり合い、喜びの共有や課題を分かち合いながら、協力し合い思いやる心を育むことを大きな目的として1年間多様な活動を計画している。

2 実践の内容

- (1) ニコニコプロジェクト一年次「委員会活動でニコニコプロジェクト」（H22年度～）
委員会の常時活動を基盤とし、川下小を素敵にしていく活動を各委員会で設定する。

主な取組内容（例）

生活安全委員会	あいさつ運動・トイレスリッパ調べ	生活力
体育委員会	昼休みの縦割り班遊びの企画・運営	異学年交流
給食委員会	青空給食の企画・残食調べ	食育・異学年交流
放送委員会	お昼の放送で「川下小クイズ」を放送	広報・宣伝
図書委員会	本の読み聞かせ・読書週間に合わせた「読書祭り」の企画	読書推進
保健委員会	目の愛護デーに合わせた「目に関するイベント」の企画	健康・病気予防
運営集会委員会	児童集会等でのよりよい人間関係を築くための企画	プロジェクト運営、推進

- (2) ニコニコプロジェクト二年次「クラスでニコニコプロジェクト」（H23年度～）
前年度の取組を継続し、クラス単位でも自分たちにできることを設定する。

主な取り組み内容（例）

2年3組	トイレのスリッパそろえ隊
4年3組	川下ーあいさつができて元気なクラス
5年1組	読書リーダー 教室移動は静かに5分前
6年3組	川下小笑顔健康宣言！



各教室に目標と一人ひとりの意気込みを掲示

(3) ニコニコプロジェクト三年次「クラブでニコニコプロジェクト」(H24年度～)

主な取組内容(例)

ドッジボールクラブ	「にげる・とる・あてる」の自分の得意なところを生かして、チームの勝利のために互いにフォローし合う。
手芸クラブ	お互いに教えあったり、作品を見せ合ったりして楽しく作品作りをする。
パソコンクラブ	ルールを守り、分からないことはみんなと教え合って楽しいクラブにする。



各クラブの取組を校舎の目立つところへ掲示

【ニコプロの変遷】



ほんの小さなことが川下小をニコニコさせることにつながるんだ!



美化委員会の朝のゴミ出し



クラスを越えて、自発的な遊び



縦割り班掃除、見事な連携♪

3 成果と課題

3年間にわたる活動を通して、「ニコニコプロジェクト」は児童の間でも十分浸透し、定着してきた。昨年はクラブ活動へも拡大し、すべての生活場面でニコプロを意識できる体制を築くことができた。今後は、高学年を中心に現状を見つめ、この活動をより充実した内容にしていくためにできることを探していきたい。また、よりよい学校生活をめざし、「楽しくニコニコできる時間を作ろう!」と考えることそのものが、すでにニコプロの一つになっているのかも知れない。学校生活のあらゆる場面に学ぶべきことがあり、心を磨くチャンスがある。これからも児童同士の関わり合いの中から心と体の成長を促せる教育活動を推進していきたいと考えている。

(4) 生活ジュニアの旅 ～「かかとピタッと」を合い言葉に～

下松市立久保小学校

○ 実践の特徴

生活向上委員会が考案した「生活ジュニア」を生かした生活指導

1 実践のねらい

生活向上委員会が考案した「生活ジュニア」を生かし、生活指導（靴そろえ・スリッパそろえ）を徹底する。

2 実践の内容



生活向上委員会が考案した「生活ジュニア」を生かした取組

①1年生にも「かかとピタッと」を続けてほしいな



②各階でスリッパがそろっていれば、😊 を貼る



アイテム集めの旅

	32×2	34×3	48×4	58×2	◎日
1階	😊😊				
2階	😊😊😊😊				
3階	😊😊				
4階	😊😊😊😊				
5階	😊😊😊😊				

- ・「かかとピタッと」を合い言葉に、はきものをそろえることを呼びかけた。
- ・新1年生のくつがそろっていたら、ミニ賞状を靴箱に入れ、意識を高めた。…①
- ・毎日クラスごとに靴調べを行い、金曜日の昼の放送で結果を放送した。
- ・各階のスリッパがそろおうよう、すごろく形式の地図を使い競うようにした。…②

3 成果と課題

生活向上委員会を中心とした取組を行ったことや、教職員が共通理解の下、継続的に指導することにより成果が出ている。久保中学校では、スリッパそろえが徹底している。小中連携として、小学校でもはきものをそろえることが当たり前になるように、引き続き指導していきたい。

(5) 児童会を主体として取り組む「赤スマイル運動」

美祢市立赤郷小学校

○ 実践の特徴

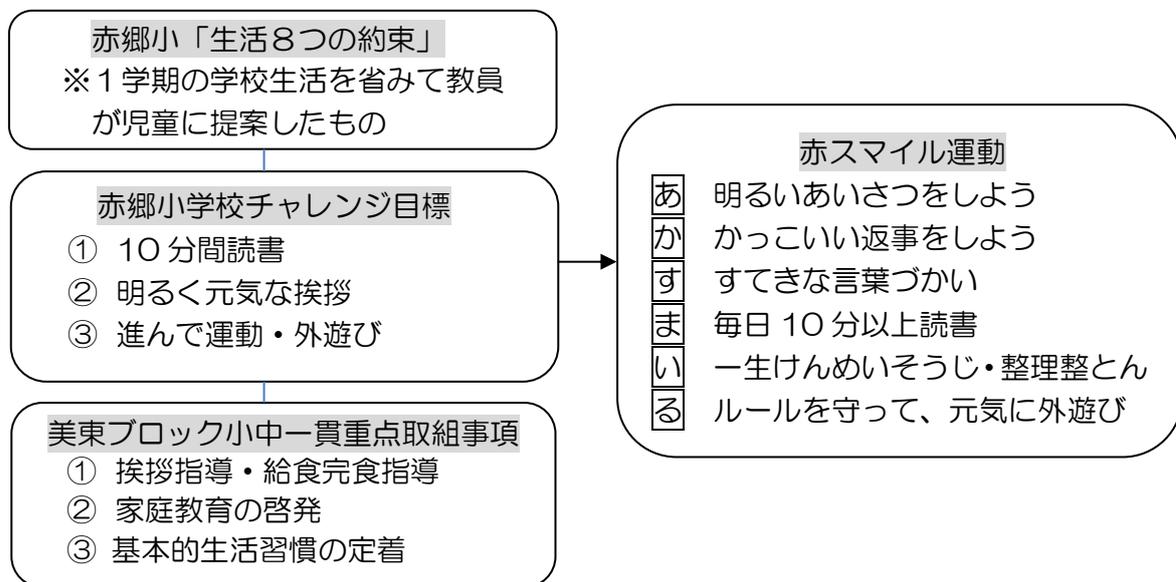
児童が社会性を身に付けていくために必要な基本的な生活習慣や集団生活におけるルールやマナーを、児童が自ら考え行動する中で身に付けようとする態度を育てる取組

1 実践のねらい

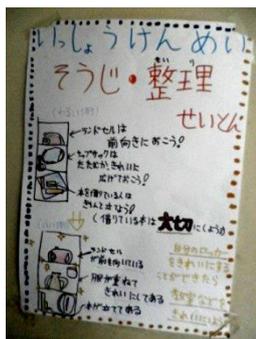
児童が、委員会活動や学級活動等を通して、「赤スマイル運動」を常に意識して創意工夫しながら取り組むことで、基本的な生活習慣を身に付けたり、集団生活のルールやマナーを守ったりすることが、自分自身の生活や学校での集団生活をよりよいものにしていくことを実感し、理解することができる。

2 実践の内容

(1) 赤スマイル運動の位置付け



本年度1学期までは、赤スマイル運動週間として、強調週間を設定して取り組んでいた。しかし、2学期からは赤スマイル運動の日常化をめざして、強調週間に関わらず赤スマイル運動の項目を意識して学校生活を送ることができるよう、各委員会を中心に取り組んだ。さらに、「生活8つの約束」についても、委員会を通して児童に呼びかけた。



情報委員会…**ま** 毎日10分以上読書

全校児童から、紹介したい本の原稿を募集し、放送で紹介したり、図書室前に、実際の本と共に、原稿を掲示したりした。

保健委員会…**い** 一生けんめいそうじ・整理整頓

ロッカーの整理について呼びかけ等を行った。



(6) MVP (光井中・ボランティア・プロジェクト) 活動

光市立光井中学校

○ 実践の特徴

生徒の自主性、自治活動能力の向上及び生徒会活動の活性化を図るために企画された活動

1 実践のねらい

本校で実践しているMVP活動は、VOLUNTAS「自由意志で決定する」というプロセスを大切に、生徒自らが「気づき、考え、実行する」ことを理念として行うボランティア活動である。

2 実践の内容

この活動は、平成20年度から行われており、今年で6年目を迎える。現在では、校内の環境美化を対象とした「校内MVP活動」と地域の環境美化を対象とした「地域MVP活動」及び学校行事や地域行事をサポートするボランティア活動「MVPneo」(平成23年度から実施)の3つの活動を行っている。以下に、「地域MVP活動」について説明する。

(1) 気づき・発見アンケートの配付(生徒・保護者対象)

まず初めに、場所決定のためのアンケート「気づき・発見アンケート」を全校生徒に配付する。これは、全校生徒に自分たちの地域を改めて見つめ直し、自分たちがどこを清掃したら地域がよくなるかを考えてもらうために実施している。これにより、全ての生徒が受身ではなく積極的に関わる基盤づくりを行うことができる。さらに、保護者の意見も取り入れることで、保護者との連携も深めることができる。

(2) アンケート集計、活動場所選出

生徒会執行部と福祉委員会とが連携して「気づき・発見アンケート」の集計・整理を行う。次にアンケートの集計結果を基に、実際に活動する場所の候補、図1に示す「MVP活動一覧表」(一部抜粋)を作成する。そして、この一覧表を掲示や生徒会新聞等を利用して全校生徒へ報告する。全校生徒はこれを見ながら自分の希望する場所の選択をする。

MVP活動一覧 (図1)

場所	隊長	副隊長	担当教員	人数	主な活動内容	学校準備物	個人準備物
冠梅園	公園			15	草抜き	がんざき5、可燃ゴミ2、不燃ゴミ1	虫よけスプレー、軍手、タオル、水筒、かま
	寺の下			15	草抜き、落ち葉集め	可燃ゴミ袋5、不燃ゴミ袋1、がんざき3、ほうき3	タオル、軍手、帽子、虫よけスプレー、水筒
国道	光高前			10	草抜き、落ち葉拾い	可燃ゴミ袋3、不燃ゴミ袋2、ピンカン用ゴミ袋1、てみ3	軍手、帽子、虫よけスプレー、タオル、水筒
	光井中前			13	落ち葉拾い、草抜き、ゴミ拾い	可燃ゴミ袋4、不燃ゴミ袋2、がんざき3、ちりとり2	タオル、水筒、軍手、虫よけスプレー
つげ通り	警察側			16	草抜き、ゴミ拾い、落ち葉集め	可燃ゴミ袋大10、不燃ゴミ袋3、がんざき7	軍手、体操服、草刈り、タオル、水筒
	郵便局側			14	草抜き、ゴミ拾い	可燃ゴミ袋10、不燃ゴミ袋3、がんざき7、かま8	タオル、水筒、軍手、かま(あれば)

(3) 活動場所希望調査の実施

全校生徒に活動場所希望調査を行い、各自の持ち場を確定していく。各隊の隊長（グループを「隊」と呼び、グループの責任者を「隊長」と呼ぶ。）は、3年生の中から希望者が担当する。隊長のサポート役の副隊長は生徒会執行部及び専門委員長の生徒が務め、隊ごとに教員が分担してそれぞれの持ち場を担当する。隊長はMVP集会（隊ごとの打ち合わせ）までに、活動場所の事前調査及び担当教員と打ち合わせを行い、当日の活動が効率的に行われるよう下調べを十分に行うことにしている。

(4) MVP集会

このMVP集会では、作業に必要な道具、集合場所、危険場所の確認などを行う集会であり、隊をさらに小さなグループにして役割分担を行うこともある。この集会も隊長を中心に、生徒たちの手によって運営されている。



総合体育館でのふき掃除（図2）

(5) MVP活動

(1)～(4)の手続きを経て、実際に活動となる。活動に必要な支持や道具の準備等も隊長、副隊長を中心に行っている（図2）。

(6) 振り返り集会

MVP活動終了後、それぞれの隊ごとに反省会を行い、その活動内容や成果を体育館にて全校で振り返る。この集会によって他の隊の活動の様子や取組の様子を全校生徒が共有することができる（図3）。



振り返り集会（図3）

3 成果と課題

(成果)

企画の段階から生徒が関わったことや、生徒の希望や意見を尊重した活動であったため振り返り集会の意見や「振り返りアンケート」の結果から、生徒の大変高い満足度を見ることができた。

生徒会選挙の立候補者の公約の中にも、このMVP活動を更に発展させて、よりよい光井中にしていきたいなどの意見が多く見られた。

(課題)

来年度以降は、コミュニティ・スクールとして小学生や地域の方と連携をしながら、この活動を実施していくための具体的な取組や方法を考えていきたい。

(7) 生徒会が中心となった「いじめ^{ゼロ}委員会」の取組

長門市立深川中学校

○ 実践の特徴

生徒による「いじめゼロ」に向けた啓発活動や巡回・声かけ活動により自治意識を育む活動

1 実践のねらい

- ・生徒が主体の「いじめゼロ委員会」の活動により、いじめ根絶（いじめゼロ）をめざす。
- ・生徒による自治活動の展開を図る。
- ・いじめを許さない意識の高揚を図る

2 実践の内容

いじめが社会問題となり、本校でも危機感をさらに感じるようになった。生徒のコミュニケーション能力の不足から、人とどのように接していいのかわからないという声もよく聞く。学校では、毎週月曜日にいじめアンケートの実施、教員による昼休みの生徒観察及び情報交換会など、取組を強化しているが、教職員だけでは分からないことも多々ある。そこで、生徒からの情報も必要と考え、本年度、さらに「いじめゼロ委員会」の活動を活性化させ、生徒による自治活動も取り入れていじめ防止を展開することにした。

委員会の組織・運営については、次のとおりである。

- ① いじめゼロ委員は各クラスからの立候補（2名以上で男女は問わない）とする。
- ② いじめゼロ委員は、前期・後期の二期制とし、生徒会副会長がいじめゼロ委員長を兼任、さらに生徒会執行部2人を加えて組織する。
- ③ 生徒主体の委員会として、生徒の自治意識の向上と人間関係づくりに重点を置く。

◇平成25年度の「いじめゼロ委員会」の活動

最初の「いじめゼロ委員会」

【前期・4月】【後期・10月】で活動案検討・実施する活動を決定

〈前期〉 委員26名

○全校生徒からいじめゼロ標語の募集

- ・委員が優秀作品を選ぶ。

最優秀 1点：「止めたなら 明日の自分は いい顔です」

優 秀 1点：「楽しいの？ 本当にそれが 正しいの？」

佳 作 各クラス2点選出

*最優秀と優秀作品は校内数カ所に掲示。佳作は学級に掲示。

○全校集会・学年集会での啓発活動

○昼休みの巡回・声かけ活動・情報交換会の実施

昼休みに委員で当番を決め校舎内を巡回。早急な対応が必要な場合は即連絡を徹底。毎週金曜日に情報を共有するための話し合いを実施。

〈後期〉 委員24名

○全校生徒からいじめゼロ標語の募集

- ・委員が優秀作品を選ぶ。

最優秀 1点：「辛くても 一步の勇気で 幸せに」

【意味】辛の文字に、一步の一を加えると、幸という文字になる

優 秀 1点：「終わらない 負の旋律に 終止符を」

*最優秀と優秀作品は、校内数か所に掲示。

○全校集会・学年集会での啓発活動

- ・いじめゼロの訴え

生徒にいじめについての作文を書かせ、みんなに
思いが伝わりそうな作文を全校生徒に伝えた。

- ・絆づくり

AFPYの実施

笑い講の実施



いじめゼロ委員会主催のAFPYの様子

○屋休みの巡回・声かけ活動・情報交換会の実施

情報交換会で、「いじり」か「いじめ」が分からないと連絡があったことから、その違いについて話し合うことにした。「いじり」には、「かたぱん」、「かんちょう」、「ももかつ」などがあげられ、「それは遊びだからいじめではないだろう」や「人にちょっかいを出しているのだからいじめだろう」など様々な意見が出されたが、結果的には、「いじり」も「いじめ」と判断し、全校集会で報告をして注意を促すことにした。

3 考察

本校のアンケートからは、「いじめは許されない」と思っている生徒が多くいた。年度当初に各学級でいじめゼロ委員を募集したところ、26名ものボランティアスタッフが集まった。このことから、いじめゼロ委員会の活動への関心があることがわかる。

また、いじめゼロ委員長を中心に、各委員の自覚（いじめをキャッチする目と見過ごさない心）を促すことは、いじめゼロに向けて皆で取り組もうとする方向付けと活動の活性化に大変効果的であると考えます。

さらに、いじめゼロ委員からの情報は、すぐに学年生徒指導担当に上げて調査を行い、その状況によっては、全教員又は各学年教員で検討会を設け、方向性を定めて解決にあたるようにしている。

AFPYや笑い講については単発的なイベントであるが、コミュニケーション能力育成や和やかな雰囲気場の場づくりには効果的であると思う。今後も、生徒が楽しめるイベントを実施し、笑顔の多い学校生活を送らせることで、いじめゼロにつなげていきたいと考えている。

(8) 第4学年「二分の一成人式をつくろう」

田布施町立麻郷小学校

○ 実践の特徴

身の回りの人に感謝の気持ちを伝え、自己の成長を実感する活動

1 実践のねらい

「自分史」の作成や「二分の一成人式」を通して、10年間の自分の成長を振り返り、これまでお世話になった身の回りの人に感謝し、よりよく前向きに生きていこうとする心情を育てる。

2 実践の内容

(1) 導入過程

～自分が生まれて今日までの「自分史」の振り返り

- ・生まれてから今日までの自分について、家族に取材し、まとめる。
- ・自分ができるようになったことを考えるなど、自分自身の成長を実感する。

※ この過程では、家族への取材等を通して自分の存在の意味に気づき、身の回りの人に感謝し、自他の生命の大切さに気が付くことができるようにすることが重要である。



「自分史」の原稿



等身大の自画像

(2) 展開過程Ⅰ～「二分の一成人式」の準備と実施

- ・自分の身体の成長が分かる等身大の自画像の作成や家族への感謝の言葉を考える。
- ・「二分の一成人式」の内容について話し合い、役割分担をして準備する。

※ この過程では、子どもたち自身が主体的に式の本番に向けて準備することができるよう支援した。

(3) 展開過程Ⅱ～「二分の一成人式」の実施

- ・身の回りの人に自分の夢や希望、成長への感謝の気持ちを発表する。

※ 子どもたちの身の回りの人、特に家族に感謝の気持ちを直接伝えることで、成長の喜びを分かち合い、次へのステップとなるようにした。

(4) 終末過程～「二分の一成人式」の振り返りとまとめ

- ・「二分の一成人式」で感じたことのまとめ

※ 「二分の一成人式」の振り返りとまとめをすることで、今後よりよく前向きに生きていこうとする気持ちを高めることができるようにした。

3 成果と課題

「二分の一成人式」実施の成果としては、次の2点が挙げられると考える。

一つ目は、子どもたちの意識の変容である。今までの成長してきた過程を振り返ることで、何となくは感じていた自分の心身の成長を、改めて強く実感し、自己肯定感、身の回りの人への感謝をもつことができたということである。この点は今後の子どもたちの成長にとって、極めて意義があると考えられる。

二つ目は、保護者と子どもの絆である。「二分の一成人式」に出席した保護者の感想として、子どもの成長を改めて実感することができたとの意見が数多く寄せられた。保護者自身もこれまでの、また今後の子育てについて考える場となったことが挙げられる。

一方、課題については、今回の成果を今後どのようにつなげていくかという点であろう。学年が上がるにつれて、子どもたちの中には、自己肯定感の低下や身の回りの人への感謝の気持ちの希薄化がみられるとの指摘がある。意欲的に学校生活を送るためには、自己肯定感や周囲への感謝の気持ちを、今後いかに培っていくかが課題であろう。

この取組だけで終わらず、いろいろな学年・場面で継続して行われていく必要があるのではないかと考える。



二分の一成人式

(9) 行事を通して心を培う ～ミュージカル制作の取組～

下松市立下松中学校

○ 実践の特徴

文化祭におけるミュージカル制作過程での豊かな心の育成

1 実践のねらい

思春期の生徒は「自己の心の表現」を苦手とする者が多い。また、自分のことに精一杯で「他者の心をおもんばかる」余裕のない者もいる。本来、素直な気持ちをもっていながら、どう表現していいのかわからないということが原因であろう。

本校では、文化祭でのミュージカルで「自己の表現」の方法と「他者の心情の理解」を生徒に学ばせたいと考えている。多感な思春期の生徒にとって多くの観衆の前で歌い、踊り、自己を表現することは大変ハードルの高いことである。その分、やり遂げた時の感動と達成感は絶大なものであり、大きな変容を見ることができると期待している。



2 実践の内容

本校の文化祭は「星華祭」とよばれ2日間の日程で秋に開催されている。6年前からステージ発表としてミュージカルに挑戦している。当然、ミュージカルともなれば通常の準備期間ではなかなか困難である。そこで、運動会が終わるとすぐに「全校選抜劇」として希望者を募り、9月の下旬から10月の末まで、土日を利用して1か月間の準備期間を確保している。単に演劇を作成するだけならば、このように長い準備期間は必要ないかもしれない。



しかし、普段恥ずかしくてちゅうちょしてしまうことに挑戦するには、考え、悩み、乗り越えるための時間が必要である。実質、配役を決め練習をスタートするのは3週間前からであるが、本校ではそれ以前の過程を大切にしている。

活動の最初に時間をかけ、演目の概要説明を行う。あらすじだけでなく、登場人物の心情、制作者の意図、監督の演出計画。また、裏方という言葉を使わずに音響・照明・道具とそれぞれの部署を提示する。役を得るにも、それぞれの部署の担当になるにもオーディションを行う。



通常の学校演劇であれば、役者と裏方を初期の段階ですぐに分けてしまうことが多い。もちろん舞台の完成のためにも、早く自分の役割を決め、集中することも必要であろう。

けれど、それでは思い切って挑戦することは難しい。大切なことは、あくまでも生徒自身が希望することである。そして、希望したからと言って、自分の思いが簡単に叶わないことを経験させることである。各部署には必要とされる条件があり、それを満たさない限りその部署には付けない。

いくつもハードルを設定することにより、生徒の心に「本当にやりたい」という気持ちがわきあがってくる。やらされている活動では決して得られないものである。何事も妥協せず、安易な方に流させない。まさに生徒との根くらべである。

約4週間の準備期間の中で希望する生徒は全員、歌唱練習と演劇の基本的なトレーニングを行う。演劇の基本トレーニングとは、即興で役割を決めて演じたり、日常の動作をパントマイムで再生したり、グループエンカウンター的なものもある。

本質的に生徒の多くは「舞台に立ってみたい」と思っている。しかし、何か背中を押すものがないと踏み切れない。では、生徒の背中を押すものとは、やはり自分自身の強い意思と専門的な練習に裏打ちされた自信ではないだろうか。

時間をかけ、厳しい練習を経験する中で、同じ目的に取り組んでいるという一体感ができあがってくる。ステージ上でセリフを話す役者と同じように、音響担当の生徒も照明担当の生徒も、同じ緊張、同じ達成感を感じながら練習をしていくのである。

例えば照明担当者であれば、劇中の全てのセリフと歌を覚えている。だからこそ歌の盛り上がりに合わせて投光することができるのである。最初の全体での基礎練習期間中に、当初は自信がもてず、恥ずかしく、大道具を希望して参加した生徒で、途中、希望を変え役者を希望した生徒もいた。葛藤もあったようだが、自分で考え、悩む時間が保証されたことによって決心することができたようだ。

演劇の原動力は自己の心の解放である。しかし、これは行き過ぎると、利己主義につながりかねない。演劇をつくっていく過程で生徒は徐々に自我を広げていく。それと同時に勘違いしないように「礼儀」を教えていく必要がある。あくまでも、観客あつての舞台であるということを理解させる。決して自分だけの力ではなく、他者の協力によって実現できるということを常に指導するようにしている。挨拶や受け答えが爽やかでない場合は練習を中止してでも注意して、諭すように心がけている。また、指導する側も密室での指導ではなく、公開練習とし、指導の様子を見てもらい、意見をいただくように心がけている。



3 成果と課題

本校がミュージカルに挑戦し、早6年になる。近年は、星華祭の最後の演目として上演している。この舞台に多くの生徒が関わることから、常に星華祭に向かって盛り上がっていく。生徒、保護者の中には、星華祭を心待ちにしている者も多く、「秋のミュージカルに参加することを目標に日々の学校生活を頑張っている。」などという声を聞くことも多い。現在、本校には学生時代に演劇を経験している教職員が在籍しており、照明・衣装・音響の分野において、かなり本格的にバックアップしている。専門的な指導や設備がより意欲を喚起し、安心感を与えていることは確かなようである。もちろん教員には異動がある。全校体制で取り組んでいるので、今後はうまく引き継ぎを行いながら、ミュージカルを継続していきたいと考えている。

(10) ストレスへの対処と心の健康(アサーショントレーニング)

美祢市立於福中学校

○ 実践の特徴

アサーショントレーニングを取り入れたコミュニケーション能力の育成

1 実践のねらい

ストレスに対処するための一つの方法として、コミュニケーションを上手にとる方法を知り、自分と相手、どちらも大切に伝える伝え方ができる。

2 実践の内容

	教師の指導・支援	生徒の活動・反応
予習 ↓ 導入	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張には大きく3タイプある。 自己主張チェックシートを記入し、教科書で自分がどのタイプかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1か月前に友だちに貸した本が、まだ返ってきません。あなたは、そろそろ返して欲しいと思っています。</p> </div> <p>非自己主張的な態度 何も言えない…</p> <p>攻撃的な自己主張 いい加減に返してよ。いつ貸したと思ってるの。</p> <p>自分も相手も大切にする自己主張 1か月前に貸した本だけど、まだ返してもらってないよね。テストがあったからゆっくり読む時間がなかったかもしれないけれど、私ももう一度読みたいと思っているんだ。今週中に返してくれたらとても嬉しいのだけど。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己主張アンケートで自分の自己主張の傾向を知る。 自己主張の3タイプを知る。 予習で、自分のタイプを判断しているが、まだ分かった状態ではない。 授業を受けながら、自分のタイプを考える。 
教える	<ul style="list-style-type: none"> 3つの伝え方のタイプについて、それぞれ言われてどんな気持ちか、生徒とのやりとりを通して、確認しながら説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>非自己主張的な態度 (のび太…自分のストレス) 攻撃的な自己主張 (ジャイアン…相手のストレス) 自分も相手も大切にする自己主張 (しずか…自分も相手も納得できる)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> しずかちゃんタイプの良さ(自分と同じように、相手を大切に伝える伝え方)を確認させ、しずかちゃんタイプの伝え方をめざすよう伝える。 	<p>生徒から、「しずかちゃんタイプが良い」という発言があった。</p> 
理解確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あなたは友人と遊ぶ約束をしています。当日、待ち合わせの時間に相手が10分程度遅れてきました。友人は今までに何度も約束の時間に遅れてきています。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 3つのタイプの伝え方について1人で考えさせる。その後、3人グループを3班作り、班で3タイプの伝え方について説明しあうよう指示。 	<p>生徒が出した答え</p> <p><u>のび太</u> 「(今度から早く来て欲しいけど、相手に言えないなあ…。我慢しよう。)」</p> <p><u>ジャイアン</u> 「遅れて来やがったな！コノヤローぶん殴ってやるぞ！」</p>

<p>理解確認</p>	<p>・各班に1つのタイプの伝え方を発表させる。</p> <p>例 のび太「これで2回目だけど、もめたくないし我慢しよう」と不満をもちつつも言わない。 ジャイアン「なんで遅刻してくるんだ。だいたいあなたは前のときも…」と自分の怒りのみぶつける しずか「遅かったけど、何かあった？すごく心配したよ。今度から、遅れるときは連絡してね。」 「相手のことを思いやる一言」が、自分の主張より先にくると、うまく相手にも伝わることも多い、と念押しをした。</p>	<p>「おい、いつまで俺様を待たせる気だ！このやろう！」 しずかちゃん 「遅かったね。ずっと待ってたんだよ。もうちょっと早く来てくれると嬉しいな。」 「何か用事があって遅れたのかもしれないけど、待っているときに心配したから、約束の時間に来てくれたら嬉しいな。」</p> <p>この時点で、「相手のことを思いやる一言」（心配したよ、何かあった？）が書けたのは2人でした。しずかちゃんタイプをなかなか書けない子もいました。</p>
<p>理解深化</p>	<p>仲の良い友人から、夜に電話がありました。友人は人間関係でたいへん悩んでおり、次第に愚痴などを長々と話すようになりました。あなたは、今日あまり体調がすぐれず、部活や宿題に追われてかなり疲れています。</p> <p>・相手のことを考えた上で、言葉にして伝えるにはどう言ったらよいか考える。3人のグループを作り、伝え方と、なぜその伝え方が良いのかを説明し合い、発表してもらう。</p> <p>・つまったときは、「ねらい」にもどり、相手の気持ちをしっかり想像させ、自分の気持ちも確認させる。</p> <p>伝え方の例 「それは、すごくつらかったね。（相手の気持ちを十分受け止めた上で）ただ、今夜はちょっと体調が悪くて、頭がぼーっとしていてしっかり聴いてあげられそうにないから、できれば明日の晩に、私から電話してもいいかな。」</p> <p>まとめ これから2年間同じクラスで過ごしていく。運動会や文化祭など、友だちとの関わりが深くなっていくにつれ、自分と相手の意見や要求がぶつかることがある。そのとき、少し考え、相手の気持ちを想像してみる。伝え合い、認め合い、クラス全員が「自分も相手も大切にしたい」ということを心掛けていたら、このクラスは今以上に楽しいクラスになると思う。これからの2年間、みんなの関係をもっと楽しいものにしていくために、心掛けて欲しい。</p>	<p>生徒の出した答え 「確かに人間関係って大変だよ。実は今日あまり体調が悪くなって、聴いてあげられそうにないんだ。体調が良くなったらまた聴くね。」 「何があったの？大丈夫？そんなに深く考えなくても大丈夫だよ。私、今日ちょっと疲れているんだ・・・」 「人と仲良くしたいなら相手の気持ちになって気を遣った方がいいよ。例えば、迷惑をかけないように長々と話を避けるとか。今日は、もう疲れているからまた今度ね。」</p> <p>どちらかという、ジャイアンタイプのような答えを書いた人もいました。友達から、「それ言われたらすごくいやだなあ…。」と指摘されていました。</p> <p>「なにかあった？相談に乗るよ。でもごめん、今日はまだ宿題があって、体調も悪いんだ。明日の昼休みに話そう！」</p>  <p>自分が相手の立場だったら、どう言われたら納得できるだろう？</p>
<p>自己評価</p>	<p>生徒の感想 「相手のことと自分のこと、両方思いやる言い方が良かったので、普段の生活でも使ってみたい。」 「しずかちゃんタイプは人間関係を良くするコミュニケーションのひとつだと思うので、これから身に付けたい。」 「自分も相手も大切にしたい伝え方は、誘いを断るときなど、相手にも納得してもらいやすいと思いました。」 「相手も自分も傷つけない言い方はとても難しいと思いました。これから心がけたいです。」</p>	

3 成果と課題

生徒の感想にもあるが、相手を思いやろうとする気持ちが高まり、日頃の学校生活の会話も優しくなったようである。本校では、来校者にあいさつをするとき、一言添えることをさせている。相手に敬意を払い、「ありがとうございます」や「お世話になります」と一言添えることが少しずつできるようになってきた。

自分がストレスをためない方法の一つとして、保健体育科と養護教諭のTTで行った。事前の打ち合わせなど、十分な時間を確保する必要があった。

3 体験活動の充実

- (1) 漁村における民泊体験活動
..... 田布施町立麻里府小学校…42
- (2) よりよい人間関係づくりをめざした体験活動
..... 田布施町立田布施西小学校…44
- (3) 全校 Being・教職員 Being (AFPY)
..... 防府市立牟礼小学校…46
- (4) 総合支援学校の子どもたちと共に学ぶ
..... 田布施町立城南小学校…48
- (5) ふれあい交流会
..... 平生町立佐賀小学校…50
- (6) 豊かな心を育む体験活動 ～道徳的实践力を育てる～
..... 平生町立平生中学校…52
- (7) 中須地区伝統芸能「杖踊り」の継承活動
..... 周南市立中須中学校…54
- (8) 高瀬峡清掃活動
..... 周南市立和田中学校…56

(1) 漁村における民泊体験活動

田布施町立麻里府小学校

○ 実践の特徴

漁村における民泊体験活動を含めた3泊4日の宿泊を伴う自然体験活動を通して、豊かな人間性を育む

1 実践のねらい

- ・漁村の自然や人々との交流の中で、働くことの意味やすばらしさ、重要性を学ばせ、児童の社会性や豊かな人間性を育てる。
- ・自主的・自立的な共同生活を通して、規律ある生活態度と集団行動の仕方を身に付けさせる。

2 実践の内容

(1) 全体の指導計画（全32時間）

- ① 活動の名称 平成24年度豊かな体験活動推進事業における自然宿泊体験活動
- ② 実施学年 第4学年 6名（男子4名・女子2名）
第5学年 4名（男子2名・女子2名） 計 10名
- ③ 活動内容及び期間・教育課程上の位置付け

【活動名称】・内容	期 間	教育課程上の位置付け
【事前準備活動】 ・周防大島町の位置と地形、水産業や食品関連産業の観点からの調べ学習 ・体験活動の計画立案 ・体験活動の自己目標設定と自己紹介シート(民泊先宛てへの手紙)作成	6月下旬 7月上旬 7月中旬	社会科(3時間) 総合的な学習の時間(3時間) 学級活動(2時間)
【集団宿泊体験活動】 ・集団行動・野外炊飯・天体観測 ・ボランティア活動 等	8月3日(金) 4日(土)	学校行事(8時間)
【民泊体験活動】 ・漁村の生活体験・職業体験 ・周防大島町での自然体験 ・星空の観察 等	8月4日(土) 5日(日) 6日(月)	総合的な学習の時間(12時間)
【事後活動】 ・体験活動のまとめ ・学んだこと、成長したことの振り返り ・調べ学習と実際の体験や観察との比較関連付け及び学習のまとめ ・体験発表(保護者会)	夏休み中 9月上旬 9月5日(水)	総合的な学習の時間(1時間) 社会科(2時間) 総合的な学習の時間(1時間)

(2) 活動の様子



事前の調べ学習



農業体験



漁業体験



涙で民泊先の方々とお別れ



遊びの変化 将棋



体験発表（保護者会）

3 成果と課題

- 民泊先の周防大島町に関する調べ学習、活動の自己目標設定や民泊先への自己紹介の手紙送付等、事前学習が自主的な体験活動につながった。
- 活動の前後に意識調査を実施した。いずれの項目からも自己肯定感の高まりがみられた。特に「自分から進んで何でもやる」「人の話をきちんと聞くことができる」「先を見通して、自分で計画が立てられる」等のポイントが高くなった。
- 活動後の振り返りで「大島の人が海をきれいにしているから魚がたくさんとれる」「魚の命をもらっているから生きていける」等の感想があり、環境や命について目を向けた児童がいた。また、民泊先の方から教えていただいた将棋を、その後の生活の中でも継続している児童がいる。保護者や地域の方々も、体験活動による児童の変容の大きさに驚いておられた。
- 児童が今回の体験活動で得た、直接人や自然と関わろうとする意欲を大切にしたい学習活動を仕組みたい。これまでの地域のゲストティチャーの方々との関わらせ方を振り返り、より豊かなふれあいができるように工夫していきたい。

(2) よりよい人間関係づくりをめざした体験活動

田布施町立田布施西小学校

○ 実践の特徴

宿泊学習のプログラムにゲーム的な活動を取り入れた取組

1 実践のねらい

入学時から単学級で進級してきている児童の固定化しつつある人間関係を広げていくとともに、今までの学校生活で知っている友達のよさとは別のよさにも気付かせる。

2 実践の内容

(1) ポールキャッチ

小グループで輪になり、1本ずつ持ったポールを手放して隣の友達の離れたポールが倒れる前にキャッチする。

初めは2人組で始め、徐々に人数を増やしていく。難易度が増す分、成功したときの喜びも大きい。



(2) 雨を降らせよう

輪になり、順番に膝をたたいて音を出す。初めは1回ずつでゆっくりたたいていき、次第に速く、回数も2回、3回と増やしていく。最後には、またゆっくりにしていきながらたたく回数を減らしていくことで、雨の降り始めからやんでいくまでの様子を表現する。

3 成果と課題

(1) 成果

ポールキャッチでは、先にポールに慣れさせるために自分の掌にポールを立てた。なかなかじっと立てていられなかったが、慣れて余裕が出てくると、近くの友達にアドバイスをしたり、励ましの言葉を掛けたりする場面も出てきた。

2人組では、初めてのためタイミングを合わせるための掛け声がずれたり、相手の取りやすさを考えずにポールを手放したりしたため、成功しなかった組も多かった。

そこで、上手にできている組のやり方を見せて、なぜうまくできるのかを見つけさせた。すると、「相手の目を見て合わせている」、「相手を取りやすいようにポールを離している」等、相手を意識した行動に着目した発言が多く出た。



その後、2人組から3人、4人と増やしていったが、相手の様子を見て「もう少し、～しようか?」と聞いたり、グループ全員が目を合わせて声を出したりという様子が多く見られた。

雨を降らせようでは、リーダーが膝をたたく回数や自分の順番を分かっていないと難しいので、なかなかスムーズに進まなかった。しかし繰り返しているうちに慣れていき、何度も失敗していた児童が成功すると自然と拍手が起こった。

これらの活動を通して、自分のことだけではなく相手の様子や気持ちを考えることでうまくいかなかったことができるようになること、また、みんなが楽しめることを実感できたのではないかと思う。

(2) 課題

宿泊学習のレクリエーションの中の短い時間で行ったので、振り返りの時間が十分取れず、活動の中で気付いた友達の知らなかった一面や、嬉しかった言葉がけなどを聞くことができなかった。一人の気づきを共有し広めることができたなら、もっとねらいに近付けたのではないかと思う。

また、一度ではなく何度も経験を重ねることで、よりよい関係づくりができると思うので、ある程度の見通しをもって今後の取組を考えたい。



(3) 全校 Being・教職員 Being (AFPY)

防府市立牟礼小学校

○ 実践の特徴

AFPYの手法の一つである Being に全校で取り組んだ実践。

自分の目標を開示することで、行動につなげていこうとするものである。心の教育は、子どもに対する働きかけだけではなく、教職員が心を開くことが大切である。

1 実践のねらい

○教職員が子どもたちにどのような意識で接すればいいのかを AFPY の視点で学ぶ

○学級の目標を Being にすることで目標を可視化し、意識の変容を行動の変化へとつなげる

○学級のルールを子どもが作ることで規範意識を高め、マナーへと発展させる

2 実践の内容

(1) 教職員AFPY

写真のアクティビティは、一つのフープの中にみんなが入るといったもの。こうしたアクティビティをすると、参加した人が口をそろえて、「みんなとやって楽しかった」「みんながいたからできた」、そして、「どうすればいいのかを考えることがおもしろい」という感想をもつ。それは、非日常的な体験だからかもしれない。この非日常的なアクティビティを体験することで心の変化が生まれるが、日常的な体験だけに終わってしまうと、心の成長が起これないと考えられている。

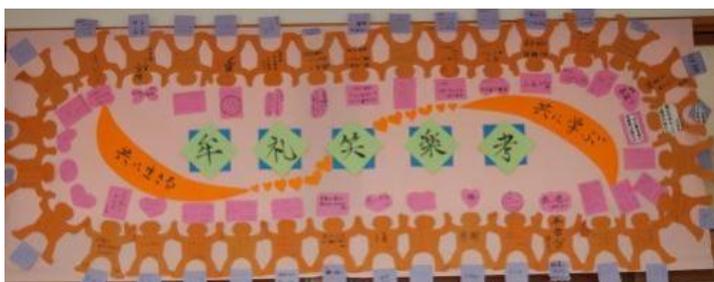


AFPY研修・・・教職員の意識改革

さて、写真のアクティビティの条件は、「全員の両足がフープの中に入っていること」である。だから、全員が立っている必要はない。子どもたちが取り組むと、簡単にはいかず、パニックが起こるといった結果になりそうである。AFPYは、結果を求める以上に、どうすればいいかと考えるプロセスの方が、学びの価値が大きいと考えている。

(2) 教職員 Being

次のアクティビティは、本校の教職員が、AFPY・PAの目標設定に関わるアクティビティの一つになっている Being (ビーイング=どうありたい?) に取り組んだものである。人型に「大切にしていること」、その内側に「子どもに伝えたいこと」、そして、人型の周りに「避けたいこと」を書いたもので、作成したものを職員室に掲示している。個人と学校の目標を可視化することで、教職員の感情面での変化につながっている。



教職員Being・・・子どもたちにどのように接したいのか?

(3) 運動会 Being・持久走 Being

子どもたちが考えたスローガン「心は一つ！無限のパワーで 勝利をつかめ！」には、運動会に向けた思いがこもっている。それに加えて、私たち教職員は、「子どもたちにもっと任せたい」との思いで運動会の計画を立てた。そのためには、子どもたちが話し合ったり、練習したりする時間が必要であった。子どもたちに働きかけた結果、夏休み前には応援団が結成され、どんな演技にするのかを子どもたちが主体となって決めるなどの行動が起こった。

また、広報委員会の呼びかけで、昇降口には一人ひとりの運動会の目標（運動会 Being）が掲示された。

「ときょうそんで一位になる」「ダンスをがんばる」などの言葉もあるが、高学年になると「みんなで助け合って」「全力で」「自分の役割は果たす」など、自分のことだけではなく、周りを意識した言葉が多く見られた。子どもの発達段階によって、目標が、個人から人との関わりへと変化していく様子が見て取れた。

同様に、持久走大会に向けた Being も掲示され、日常化しつつある。

3 成果と課題

A F P Y・P Aの理論を用いて、教師が教育環境をデザインしていくと、子どもたちは「学級づくり」の重要性を認識し始める。

そして、教師が目標設定するのではなく、子どもの主体性を意識した関わり方をして学級目標などを決めていくようにすると、「あなたの学級では、学級の友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていますか」という質問に対して、肯定的回答が97%という高い数値を示すなど、他者とのつながりを意識するようになった。

さらに、児童会活動などでも「あいさつ運動」が子どもたちの提案で始まったり、靴をそろえるマナーが身に付いたりするなど、行動に変化が見られた。

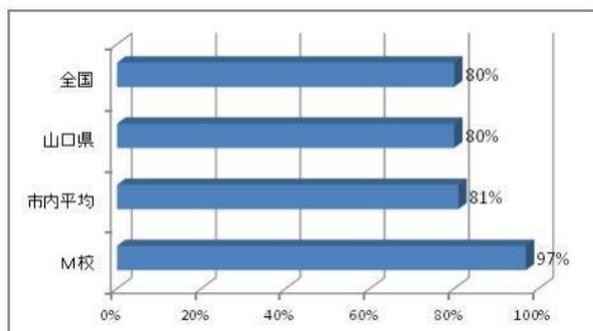
このような活動を保護者や地域にしっかりと伝え、子どもたちの規範意識を高め、マナーが身に付いた子どもを育てたい。



運動会Being・・・運動会でこうありがたい！



持久走Being・・・個人目標を可視化



ルールは子どもたちが決める → マナーへ



靴のかかとがそろっている！

(4) 総合支援学校の子どもたちと共に学ぶ

田布施町立城南小学校

○ 実践の特徴

田布施総合支援学校小学部の児童との交流及び共同学習を通じた豊かな人間性の育成

1 実践のねらい

- 障害のある子どもの特性や個性を理解し、認めることができるようになる。
- 他者に対して、豊かな思いやりのある気持ちで関わることができるようになる。

2 実践の内容

4月の全体交流連絡会において、指導計画に基づく内容や方法を事前に検討し、組織的に計画的・継続的な交流を実施する。また、年度末に交流学習反省会を実施し、指導計画や指導内容・方法等の改善を行っている。

(1) 交流及び共同学習内容

月 日	内 容	交流学年		場 所
		城南小学校	支援学校	
4月17日(火)	全体交流連絡会	教職員	教職員	田布施総合支援学校
5月 1日(火)	田布施総合支援学校 春の遠足			城南小学校
5月18日(金)	遊び交流 (城南小春の遠足)	1・2年	全学年	田布施総合支援学校
6月 1日(金)	遊具で遊ぼう	4年	全学年	城南小学校
6月29日(金)	プールで遊ぼう	4年	全学年	田布施総合支援学校
7月 5日(木)	七夕飾りを作ろう	6年	全学年	田布施総合支援学校
10月25日(木)	いもほり交流	2年	全学年	田布施総合支援学校
1月25日(金)	交流学習反省会	教職員	教職員	城南小学校

(2) 交流及び共同学習実施計画

- 単元名 七夕飾りを作ろう
- 日 時 平成24年7月5日(木) 10:40~11:20
- 場 所 田布施総合支援学校
- 参加者 城南小学校 6年 15名
田布施総合支援学校 小学部 20名
- 学習過程

日 程	活 動 内 容	留 意 点
9:40	• 城南小学校 出発	• 各グループの活動場所へ移動する。
10:30	• 田布施総合支援学校 到着	
10:40	• 各グループで活動する。 七夕の短冊や飾りを作る。 室内遊びをする。	• 各グループで活動する。 • 城南小児童はその場に応じた関わりをする。
11:20	• おわりのあいさつ	• 各グループごとにお別れのあいさつをする。
11:30	• 田布施総合支援学校 出発	
11:40	• 城南小学校 到着	

(3) 活動の様子



遊び交流



遊具で遊ぼう



七夕飾りを作ろう



授業（新聞紙遊びに参加）



いもほり交流

3 成果と課題

障害のある子どもとの共通点を見つけ仲間意識をもったり、障害のある子どもが自身の障害を克服する姿にふれて、自分自身の生活を振り返ったりする機会にもなった。計画的、継続的な交流をしているので、自然な関わりができています。

交流活動をしている時だけでなく、普段の生活の中ですべての人々に対して、豊かな思いやりのある児童を育てていくことが大切である。

(5) ふれあい交流会

平生町立佐賀小学校

○ 実践の特徴

昔の遊び等を通した、異学年や地域の人々と関わる体験活動

1 実践のねらい

異学年や地域の方とふれあう活動を通して、マナーを守ったり、相手のことを考えた行動の仕方を身に付けたりすることができるようにする。

2 実践の内容

(1) 事前学習 …… 1、2年合同生活科

《ねらい》

ふれあい交流会について知り、相手のことを考えて会を進める計画を立てて、練習する。(1、2年合同生活科)

《学習活動》

ア ふれあい交流会について知る。

- ・誰が来るのか、どんなことをするのかを知らせ、交流会のイメージをもたせることによって、各自のめあてをもたせる。

イ 会の流れを確認し、進め方を考える。

- ・会の大まかな流れを伝え、相手を意識した話し方を考えさせる。
- ・具体的に動きながらイメージをもたせる。
- ・よい言い方やよい姿勢(目の向き、表情)などを褒めることで、友達のよいところに気付かせるとともに、自分を振り返らせる。

ウ 練習をする。

- ・いろいろな場面を想定し、いつも相手を意識しながら練習できるように声を掛ける。
- ・司会や、挨拶の言葉は、そのたびに変わってもよいことを知らせ、臨機応変に対応できることを賞賛する。

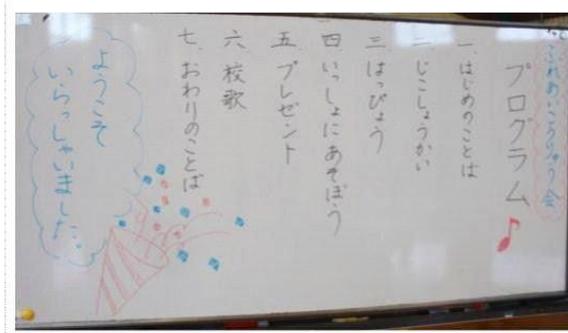
エ 振り返りをして次の活動のめあてをもつ。

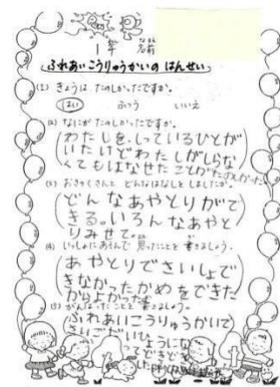
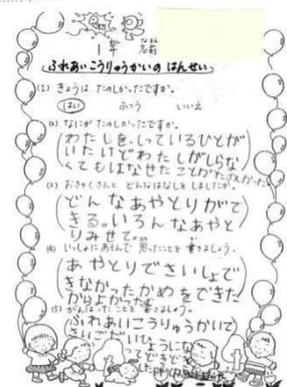
- ・交流会へ向けてのめあてを再度確認して、本番への期待をもたせる。

(2) ふれあい交流会 …… 1、2年合同生活科

【プログラム】

- ① はじめのことば
- ② 自己紹介
- ③ 学年の発表
- ④ げんこつ山のたぬきさん
- ⑤ 一緒に遊ぼう
- ⑥ プレゼント
- ⑦ 校歌斉唱
- ⑧ おわりのことば





3 成果と課題

- 1、2年合同での活動だったので自然に異学年で関わることにつながった。また、地域の方の中には年配の方もたくさんおられ、優しく話しかけてくださっていたので、楽しくふれあうことができた。子どもたちも、初めて出会った方に積極的に関わろうとしていた。
- 「えがおで接する」「自分から話しかける」など、それぞれにめあてをもたせたところ、意識している様子が見られた。
- こま、たこあげ、お手玉など、昔の遊びを一緒にする活動は、自然に言葉を掛けたり、ふれあったりするのに有効で、楽しく活動することができた。
- 司会進行や、はじめの言葉など、児童にたくさんの出番があり、役割意識をもって行動しようという姿が見られた。また、その際に、台本を作らずに自分で考えて言うように声を掛けたところ、つまりながらも言葉を選んで言うことができ、よい経験になった。
- 会の後、給食も一緒にいただき、交流を深めることができた。

(6) 豊かな心を育む体験活動 ～道徳的实践力を育てる～

平生町立平生中学校

○ 実践の特徴

地域との連携・生徒の主体性を活かした体験活動

1 実践のねらい 「地域に出かけて、道徳的实践ができる生徒を育てたい」

地域を愛し、感謝の気持ちをもって地域に貢献したいという生徒の意識を高め、実際に行動に移せる生徒を育てたいという校長の願いとリーダーシップの下に実践した。

2 実践の内容

(1) 特色ある体験活動を活かして

既に実践している体験活動や教員の指導について道徳的な視点から見直すことによって、生徒の道徳的価値観を揺り動かし、道徳的实践力を高めていきたい。

《本校の主な体験活動》

ア ひらおお助け隊（独居老人宅訪問奉仕活動）	1年実施
イ 広島平和学習	2年実施
ウ チャレンジワーク（職場体験学習）	2年実施
エ 思春期体験学習（幼児とのふれあい体験）	3年実施
オ ふるさと体験学習	全学年実施

体験活動と学習内容を深く関連付けることができれば、体験活動は、ただの「楽しい思い出」ではなく、生き方を学ぶ「学びの場」となる。活動が豊かな心を育む体験活動となるために重要だと感じたことは、次の点である。

- ① 道徳の時間を体験活動の前あるいは後に位置付けて、自分自身の振り返りをさせ、自己の内面を見つめる指導を必ず行うこと。当然のことながら、道徳の時間が、活動の事前・事後指導にならないようにすること。生徒の実態を把握し、指導に活かすこと。また、生徒の実態に応じて、効果的な資料を用い、授業を柔軟に考えること。
- ② 体験活動時だけでなく、先を見通して生徒を指導していくこと。その活動だけで指導を終えないこと。学んだことをさらに次の道徳的实践につなげていけるよう心掛けること。つまり、道徳的实践力が道徳的实践につながっていくよう意識すること。

生徒の道徳的な価値観を高め、次の実践へとつなげることができなければ、生徒の活動が真の生きた体験活動とならず、単に行事を行うだけの活動に終わってしまうおそれもある。生徒の内面を把握し、実態に合わせて指導することは難しいが、大切なことである。



思春期体験学習の様子

(2) 生徒会を中心にした自発的なボランティア活動を通して

- 町主催の花の苗植栽ボランティア活動、学校の花の水やり活動
- 地域一斉清掃や部活動での自発的な清掃活動
- あいさつ運動



あいさつ運動



清掃活動

3 成果と課題

地域との連携 「おかげさま」「お役に立てば」

地域との連携を考える上で、とても大切なのが、この「おかげさま」「お役に立てば」という考え方だと思う。特別なことを新たにというのではなく、「今、行われている地域・家庭との連携をさらに深める」ことが大切である。

本校には、26年間続いている「ふるさと体験学習」を始めとして、「乳幼児とのふれあい」や「一人住まいの高齢者宅の訪問」など、多くの特色ある体験活動がある。これらの活動は、思春期の生徒の心を揺さぶり、かたくなになりがちな心を解かしている。一方で、体験活動の講師やお世話をいただいているお年寄りなど、地域の方も活動を心待ちにしておられ、毎年の準備に余念がない。このようなヒューマンネットワークによって、生徒の心情は細やかに育まれている。

地域の人に見守られて生徒たちは育っている。地域の花の苗植栽ボランティアや社会福祉協議会主催事業、地域清掃活動等への参加者も増加し、ボランティア活動に取り組もうとする気運は高まり、実践できる生徒が増えてきたと感じている。

右の新聞は、地域の公民館だよりである。地域の一斉清掃に取り組んだ生徒が思いを次のように書き記している。

「私たちがこうして活動ができるのは、地域の皆さんが私たちのことを温かく見守ってくださるおかげです。地域活動は、地域の人と会話したり、ふれあうことのできる貴重な活動だと思います。・・・この恵まれた環境に今いることが幸せだと思いました。」

(7)第64号 曽根公民館だより 平成25年3月8日

私たちの地球を守るために 一人ひとりができることから実践しよう!

地域ぐるみ一斉清掃のお礼

美しい曽根を育てる会

「美しい曽根を育てよう、環境美化はあなたが行った役割」をスローガンに、昨年十一月十日に行いました恒例の



地域ぐるみ一斉清掃には多くの地域の皆さん、又中学生は土曜日の休日にも関わらず大勢多くが参加され、協力して下さいました。毎年のことですが中学校の生徒さんが多く参加されるので地域の皆さん目を細めて感心していました。

この生徒さんたちは将来、環境を大切にすることができるよう、おかげで各種のゴミを指定場所を集めることができました。皆様参加に協力本当にありがとうございました。

アメリカインディアンの教え『この地球は未来の人たちから預かっているもの』のごとく美しい地球を未来の人たちに送りたいものです。

私と曽根地区

平生中三年 塩田 葵衣

私が通う平生中学校がある曽根地区は、温かく、自然いっぱいの美しい地区です。この美しい景色が保たれているのは、地域の方々のおかげだと思います。

私は、曽根地区に三年間とてもお世話になったので、何か貢献できたらいなと思ひ、恩返しに気持ちで

曽根地区一斉清掃に参加しました。朝早くの活動だったので、皆さんの方が参加して、地域の方の町を愛する気持ちや、心の温かさを感じました。清掃活動に参加した後は、自分が普段通っている道がきれいになって、自分自身も環境づくりに協力することができ、うれしく思いました。今まで見ていた景色より、見えるものが大きく広がった気がしました。

私は吹奏楽部に所属していました。部活の練習で朝早くに楽器を吹き、運動会練習時には大きな音で演奏してとても迷惑をかけたと思います。けれども私たちがこうして活動ができるのは、地域の皆さんが私たちのことを温かく見守ってくださるおかげだと思います。日頃の感謝の気持ちを込めて、吹奏楽部では月に一度校外清掃を行っています。この校外清掃を行うことで地域の皆さんに応援される部活をめざしています。

地域活動は、地域の人と会話したり、ふれあうことのできる貴重な活動だと思います。この活動に参加して、この平生町の恵まれた環境の中に今いることが幸せだと思います。私は卒業しますが、これからも美しい曽根地区であってほしいと思っています。

(7) 中須地区伝統芸能「杖踊り」の継承活動

周南市立中須中学校

○ 実践の特徴

戦国時代から伝わる地域伝統芸能の継承者として生徒全員で行う活動

1 実践のねらい

中須地区の伝統芸能「戻路杖踊り」を受け継いでいく活動を通して、

- ① 自分を支えている地域の歴史やその良さ、課題を認識させる
- ② 郷土を愛する心および自分自身への自信と誇りを培う
- ③ 生徒同士の豊かな人間関係づくりをめざす

2 実践の内容

「杖踊り」は、周南市中須地区戻路（もどろ）で戦国時代より継承されてきた伝統芸能である。戦争で一旦途絶えた後、昭和59年（1984年）、地域の方々の尽力により中須中学校生徒を継承者として復活し、その後秋季大運動会で毎年披露しながら今日に至っている。今年度で29年目の継承となる、本校の最も特色ある歴史的な活動である。

「杖踊り」は単なる舞踊ではなく、自衛手段としての棒術の流れを汲む

打ち合いが最大の見せ場となっており、現在本校ではこれを保健体育の武道として位置付けて実施している。総合的な学習での地域調査（「N. C. タイム」の名前で実施）や各教科・特別活動での地域学習・地域活動と合わせ、地域の風土・伝統・文化を教材とした学習の柱として位置付け、全校生徒（現在生徒数5名）で取り組んでいる。

「杖踊り」の取組では、上級生から下級生への踊り・技の継承活動を基本としながら、次のような場を設定している。

- ① 杖踊りの歴史について調べ、学ぶ場
- ② 話合いの場（日々の振り返り、思いや考え・アイデアを伝え合う場）
- ③ 生徒が自主的に計画を立て、練習に取り組む場（夏休みの自主練習等）
- ④ 地域・保護者の参加・協力を得る場（杖踊り保存会の方からの受指導・衣装着付けの保護者の協力等）



中須中学校「戻路杖踊り」（もどろつえおどり）
山口県中学校文化連盟 第7回総合文化祭に
全校生徒8名で出演（平成23年11月13日）

さらに、生徒の喜び・生徒同士の連帯感・継承者としての誇り等を高めるために、発表の場を校外に求めることも行っている。昨年度は、山口県中学校文化連盟第7回総合文化祭で発表する機会を得ることができた。今年度は中須地区産業文化祭（11月）への参加を計画しており、地域伝統芸能により育てられた生徒の姿が、より多くの地域の方々によって共有される場となることを期待している。



杖踊り保存会の指導者を招いての練習

3 成果と課題

中須地区の子どもたちの多くは、小学生時代に小中合同運動会での中学生の杖踊りの演技を見てあこがれ、いつの日か「通りごらん」（打ち合いの中で最高難度の技）を自分がやることを夢見て中学校に入学する。やがて中学校で、その活動の楽しさや喜び・感動を体験する中で、郷土の歴史や人々の思い・課題を知り、郷土愛を深め、継承者（＝郷土の一員）としての誇りと自覚をもって後輩への指導に当たるようになる。

さらに「杖踊り」は、危険な重い杖を持ち難易度の高い技を習得しなければならないだけに、できるようになった喜びは大きく、一人ひとりの自信・自己肯定感を高めるのにも大いに貢献している。これらは、将来ふる里から旅立つときの大きな心の支えになるであろう。

本校は山間部に位置する農村で、近年、過疎化による生徒数減少・指導者の高齢化の問題があり、「杖踊り」の継承も非常に困難な状況がある。これは学校のみならず地域全体の問題でもある。

しかし、そのような中で生徒たちは郷土の象徴ともいえる「杖踊り」への思いをますます強めながら日々活動している。

今後も、踊りや技だけではなく、育てあげた心を伝え合う活動として、また、学校と地域の人々の心を結びつける大切な取組として継続していきたいと考えている。

練習での話し合いの場では出された生徒の意見

- 「1年の頃杖踊りは、かっこよさに引きつけられ、ただ楽しむだけでしたが、総合文化祭に出て県の方に見てもらってからは、自分たちにしかできない大事な活動だと思うようになり、自分がやらなければ後世に伝わらないという使命感みたいな気持ちが強くなりました。」
- 「杖踊りは中須にずっと残したい。生徒の人数が減っているので、卒業生が参加していかなければならないと思う。僕は卒業したら参加したい。」
- 「杖踊りを発表して地域の人々に喜んでもらいたい。」
- 「（大人が取り組んでいる）地域の神楽の保存活動にも将来参加したい。」

(8) 高瀬峡清掃活動

周南市立和田中学校

○ 実践の特徴

生徒会が中心となり、地域の団体と連携をとりながら行う地域清掃活動

1 実践のねらい

- ① 奉仕活動に従事することにより、心身ともに健全で自主性、創造性（自主）に富み、人間性豊かな心情（敬愛）、たくましい意思と実践力（至誠）をもった生徒の育成に努める。
（「校訓」 自主・敬愛・至誠）
- ② 地域環境の整備をすることにより、美しい環境を守り郷土を愛する心を育てる。
（役割把握・認識能力）

2 実践の内容

和田中学校生徒会は、昭和58年度以来、生徒会が中心となり、地元の「高瀬峡保存会」と連携しながら、校区内の景勝地「高瀬峡」の清掃活動に取り組んでいる。昭和57年度以前は学校林の整備作業を行っていたが、学校林の廃止に伴い、キャンプや紅葉狩りに多くの人々が訪れる高瀬峡の清掃活動を行うこととした。以来30年、夏期休業中を活用して、生徒会整美緑化委員会を中心に生徒全員で、高瀬峡のごみ拾い作業を続けている。



3 成果と課題

〔 成 果 〕

- 夏季休業中の取組ではあるが、全校生徒が毎年欠席者もなく全員が参加しており、高瀬峡清掃への意識の高さがうかがえる。「地域の宝を自分たちの手できれいにする」という郷土への思いがうかがえる。
- 高瀬峡清掃活動当日の帰宅途中にごみを自主的に拾う生徒もいる。清掃活動で培われた身の周りを注意深く見渡す眼が、身近な環境を守ろうとする意識につながっていると思われる。

〔 課 題 〕

- 半日がかりの作業のため、年間1回実施の奉仕活動となっている。本実践に加えて、「短時間でも身近な環境を守るために何かできることはないのか」について、現在、生徒会が今後の活動をについて模索している。
- 本校は生徒数が減少傾向にある。高瀬峡清掃の活動内容とそれに伴う人員配置や時間設定など、毎年見直しを加えながら絶やすことなく継続可能な取組とすることが、今後の課題である。

4 全教育活動を通じた取組

- (1) 優しさや思いやりの心を育む教育活動
.....防府市立中関小学校...58
- (2) 「聴き合う・つながり合う・学び合う」豊かな人間関係づくり
.....下関市立山の田小学校...60
- (3) 絆プロジェクト
.....萩市立明木小学校...62
- (4) 挑戦が育む「心」
.....下関市立菊川中学校...64

(1) 優しさや思いやりの心を育む教育活動

防府市立中関小学校

○ 実践の特徴

道徳の時間の充実、生徒指導との連携や特別活動等の一層の推進

1 実践のねらい

様々な教育活動を通して、子どもたち一人ひとりが、互いに優しく思いやりの心をもって生活できるようにする。

2 実践の内容

(1) 道徳の授業の充実

本校では、参観日等を中心に、全校で授業を公開したり、研修に取り組んだりしている。授業後、保護者からの感想などもいただき、一層の充実に向けて取り組んでいる。

6年生は、今年度「地域の偉人に学ぼう～ドリカムキッズジャパン～」の授業に参加し、吉田松陰先生の生涯や残された言葉を学んで大変感銘を受けた。山口県や防府市の偉人、地域素材に学びながらこれからも心を育てていきたい。

<児童の感想より>

- ・私は、ドリカムの授業で、新しいことをたくさん学びました。「真心をこめてやればできないことはない。」「学んだことを、どう実行するかが大切である。」などの言葉です。牢屋の中でも「みんなで得意なことを教え合ひましょう。」と自分が勉強するだけでなく周りの人にも勧め、心を変えていったことに感動しました。
- ・私たちくらいの中からお殿様に勉強を教えていて、びっくりしました。ペリーが来た時にも、真正面から「連れて行ってください。」と頼むなんて勉強への意欲がすごいと思いました。今は海外留学などもできるので、松陰先生が生きておられたら、とても喜ばれるだろうと思いました。そして松下村塾！そこで学んだ人々が日本の未来をつくっていったことに、とても感動しました。

(2) 生徒指導との連携による心の教育

チャレンジ目標として「いきいきあいさつ、優しい言葉、進んではたらく中関っ子」の合言葉の下、誰もが楽しく優しい気持ちで学校生活が送れるように、全校職員が共通理解しながら進めている。

具体的には、毎月、重点目標を決めて全校で取り組み、チャレンジカード（振り返りのカード）に自分で反省を書き、家庭からも励ましの声を頂いている。

また、「心の宝箱」には、児童や教師から子どもたちのすばらしい姿が毎月届き、それを紹介することにより、友だちのよさや優しさに気付いたり、自分を振り返ったりするよい機会となっている。

さらに、宝箱に届いた声を、児童の目にするところに掲示することで、一層の励みとなっている。



(3) 特別活動を通して心を育む

よりよい中関小にしていきたいとの、子どもたち自身の願いから、いろいろな考えを出し合いながら、集会や委員会活動に取り組んでいる。自分たちのアイデアが活かされることで、みんなのためにもっとできることはないか、全校のみんなで取り組めることはないか等の意識が高まってきたように思う。



<あいさつ運動>

ネットワーク委員会や全クラスが交代で、朝、正門前に立ち、あいさつ運動をしている。元気よくあいさつができている班には、地域の方から「生き生きあいさつカード」を頂いており、励みとなっている。継続することで児童の意識が高まり、学校の中でもよいあいさつができる児童が増えてきた。

<児童集会・委員会活動>

集会では全校児童が集い、楽しく歌ったり、発表を見たりすることで、学年を超えて親近感が生まれ、子ども同士の連帯感が強まっている。また、意欲的な委員会活動への取組が子どもたちの心を育む一助となっている。



みんなで今月の歌を歌おう



中関小にサンタがやってきた！



英語劇「大きなかぶ」



本大好き委員会の発表



毎月の掲示



仲良しドッジボール大会



ペア学年で仲良し給食

～ ペア学年で仲良く助け合ったり、会食したりして楽しく過ごしました ～

3 成果と課題

「優しさや思いやりの心を育む」ことを軸に、全教職員が共通理解しながら進めていくことによって、児童もお互いを尊重し合い、友達に温かく接していこうとする態度が見られるようになってきた。上学年児童が、下学年の子どもたちを助けたり仲良く遊んだりする姿も多く見られるようになった。しかし、全校的な意識の高まりという点から見ると、これからはもしっかり児童の心に寄り添いながら心を育てていく努力が必要であると考えます。

今後も様々な教育活動の場を生かしながら、一人ひとりのよさを伸ばし、優しさや思いやりの心を育てていきたいと思う。

(2)「聴き合う・つながり合う・学び合う」豊かな人間関係づくり

下関市立山の田小学校

○ 実践の特徴

豊かな人間関係づくりにつながる授業改善

1 実践のねらい

山の田小の学校教育目標「聴き合う・つながり合う・学び合う」をキーワードとして、あらゆる教育活動において、それらを意識しながら、全学年・全教職員が一つのチームとなって実践を重ねていく。そうした実践を重ねていくことは、そのまま豊かな人間関係の構築につながっていく。



2 実践の内容

(1) 実践事例① 授業改善(全学年)《心をみがく》

〈ねらい・留意点〉

- ・関わり合いを引き出す対話のある学習や問題解決的な学習などを設定する。
- ・グループ活動などの協同的な活動や活発に表現し合う活動を意図的に仕組むことで、学習意欲を高める。

〈活動の成果〉

- ・男女関係なく、主体的に関わる姿が見られるようになった。
- ・関わり合うことがスムーズになってきた。

(2) 実践事例② 学習形態の工夫(全学年)《心をみがく》

〈ねらい・留意点〉

- ・子どもたちが聴き合い・つながり合いながら、豊かに学び合う授業づくりに向けて、机をコの字型に配置する。

〈活動の成果〉

- ・「話しやすい」「先生、ずっとこの形がいい」など、子どもたちから肯定的な意見が多く聞かれた。実際にやってみて、子どもたちの表情がよくわかり、机間指導もしやすかった。自然と、話し合う雰囲気になった。



(3) 実践事例③ 朝学時間を使った学級遊び(全学年)《心をひらく》

〈ねらい・留意点〉

- ・児童と教師と一緒に遊ぶことで、温かい人間関係、信頼関係を築く。
- ・学級という集団で遊ぶことを通して、学級内の人間関係をよくしたり、人間関係づくりのスキルを学ばせたりする。

〈活動の成果〉

- ・遊びの効果は絶大である。児童と教師の間に信頼関係が構築されると、学級経営がより機能するようになった。問題行動に対する指導も、子どもの心により響いている実感があつた。

(4) 実践事例④ 学級開き[対話型・自己紹介ゲーム](4年)《心をひらく》

〈ねらい・留意点〉

- ・用紙に書いたことをもとにしながら、クラス替えになった新しい友達とも言葉を交わすことができる。
- ・お互いのことを知り合うことは楽しいことだと感じることができる。

〈活動の成果〉

- ・教室の中に笑顔があふれ、にぎやかになり、いたるところで楽しい会話や対話が生まれた。学級懇談会で、その時の写真を見せながら紹介したが、保護者からはとても好評だった。



(5) 実践事例⑤ 学校周辺のごみ拾い及び分別（4年）《心をつたえあう》

〈ねらい・留意点〉

- ・地域の公園を中心にごみ拾いをすることで、地域のごみの現状を知り、きれいな校区にしようとする思いをもつことができる。
- ・ごみの分別を体験し、これからの生活に生かすことができる。



〈活動の成果〉

【児童の感想】

- ・ポイ捨てをしている人が、とても多いことが分かった。
- ・「燃えるゴミ」の袋が5袋にもなって、びっくりした。
- ・これからは、ポイ捨てをしないようにしたい。
- ・ごみを拾う習慣を付けたい。
- ・地域のごみを拾う活動に参加したい。

(6) 実践事例⑥ ふれ合いゲーム（4年）《心をつたえあう》

〈ねらい・留意点〉

- ・人間関係を深める活動を通して、一人ひとりの人間的な成長を促すとともに、集団の成長を図り、よりよい人間関係づくりをめざす。

〈活動の成果〉

- ・身体を動かす楽しい活動を行うことで、クラスが明るい雰囲気になった。ゲームに夢中になればなるほど、子どもたちは自然とコミュニケーションを交わし、協力的になっていった。振り返りの活動では、「何に気付けたか」「何が学べたか」という視点で評価していった。



3 成果と課題

「聴き合う・つながり合う・学び合う」ことは、すべての教育活動に関わっているので、全職員が一つの方向に向かって取り組むことができる。

人に親切にされるとうれしいし、親切にされた児童は人に優しくできるものである。温かい交流の経験・積み重ねが、学習意欲や明るく学校生活を送る原動力にもなっているようだ。

「教師の待つ姿勢」「子どもの話をしっかり聴くこと」が大きな課題である。子どもたちに委ねることができず、つい教師が出てしまう。子どもたちのちょっとした仕草やつぶやきに、もっと気を配り、豊かな人間関係づくりにつなげたい。

(3) 絆プロジェクト

萩市立明木小学校

○ 実践の特徴

人権意識を高めるための「人権の花運動」「高齢者の方々や地域の方々との関わり」

1 実践のねらい

本校は、三つのいっぱい「笑顔・やる気・コミュニケーション」という教育目標を掲げて取り組んでいる。本年度は、子どもの人権意識を高めるために、「絆プロジェクト」と題して「人権の花運動」と「特別養護老人ホーム ちはるえんの訪問」の2本柱として取り組んでいくことにした。これらの活動によって、高齢者の方々や地域の方々に関わり合ったり、自分と他者と心をつないだりすることができ、ひいては教育目標（コミュニケーション）の具現化も期待できると考えた。

- 植物を育てることを通して協力、感謝、生命の尊さを実感する中で、人権尊重思想を育み情操豊かなものにする。
- 「ちはるえん」のお年寄りとの交流を通して、世代や立場の異なる人の気持ちを考えたり老人福祉問題に関心をもったりする。
- 老人福祉が、多くの人によって支えられていることに気づき、自分にできることは何かということに関心をもって実践しようとする。
- 自分の学習成果や思いを聞く人に分かりやすく伝えるために表現方法を主体的に選び、表現力を高めることができる。

2 実践の内容

	「絆プロジェクト」活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権の花運動」についてのオリエンテーション ・花壇の名前決め、看板作り（佐々並小の児童と一緒に）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・人権ポスター制作・標語作り ・2年生と5年生でヒマワリの種まき ・5年生が3、4年生に人権ポスターを発表 ・「特別養護老人ホーム ちはるえん」訪問①
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・6/12人権花運動セレモニー（苗植え、看板立て）・・・全校参加 ・ちはるえん訪問②
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で一週間交替で水をやる ・ちはるえん訪問③
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの水やり（4～6年生）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリの花を描こう（全校） ・1年生と5年生でヒマワリの種採り ・全校でヒマワリの種選り ・ちはるえん訪問④
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・4～6年生でひまわりの種の袋詰め ・全校でメッセージカード作り（地域の方々やお世話になっている方にヒマワリの種を届ける1人3袋） ・ヒマワリの種のラッピング ・ちはるえん訪問⑤ ・ちはるえんへヒマワリの種のプレゼント
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・明寿会の方へヒマワリの種をプレゼント ・旭総合事務所にヒマワリの種を置かせてもらう ・11/27（月）人権参観日・人権出前講座 ・ちはるえん訪問⑥
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・12/15（土）人権の心をはぐくむ市民の集い参加
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ちはるえん訪問⑦
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ちはるえん訪問⑧

3 取組を終えて

(1) ひまわりの花を育てよう

- ひまわりの花を育てることを通して、他学年や他校、地域の方々とふれ合い、互いに思いやる心を育てることができた。
- ひまわりの種を通して「次の世代へ命のリレー」について考えることにより、命の大切さについて再認識することができた。
- 一人ひとり、日頃お世話になっている方にメッセージを添えてひまわりの種を届けることで、改めて人との関わりについて考え、感謝の気持ちをもつことができた。



(2) 人権ポスター制作

- 人権ポスター作成にあたり、「どんな地域にしたいのか」、「どんなことを大切にしたいのか」を標語にし、その思いを絵にすることで、よりよい社会にするために、自分ができることを考えることができた。
- 自分が作成したポスターを他学年に紹介することで、相手に自分の思いを伝えることや発表者の思いをくみ取ろうとする心を育てることができた。



(3) ちはるえん訪問

- 毎月訪問することで、自分たちで計画を立てて準備し実行する力が身に付いた。
- お年寄りや職員の方々の話を進んで聞き、興味のあることについて深く知ろうとする姿が見られた。
- 高齢化社会の問題について考え、思ったことや考えたことを身近な人たちに伝えようとする姿が見られた。
- 「ちはるえん」訪問を通して学んだことを、自分の祖父母への思いやりにつなげようとしていたり、これからの老人福祉に役立てていこうとしたりする心を育むことができた。
- 高齢者の方々との交流を通して、高齢化社会の問題について進んで考えようとする姿が見られた。
- 「ちはるえん」の入所者、職員の方々と積極的に関わろうとする姿が見られた。
- 発表の準備のために友達と協力し自分の役割をきちんと果たそうとする姿が見られた。



(4) 挑戦が育む「心」

下関市立菊川中学校

○ 実践の特徴

規則を守らせる指導ではなく、目標に挑戦させることで学びの場を整えようとする取組

1 実践のねらい

目標に挑戦させることで、自尊感情や自己肯定感を育むとともに、学びにふさわしい生活環境や人間関係を整えることをめざす。

2 実践の内容

(1) 日本一学びが好きな学校

平成 23 年度から、教職員だけでなく生徒が覚えられる学校教育目標として「日本一学びが好きな学校」を掲げている。学校教育目標を達成するのは生徒だというスタンスで取り組んでいる。

(2) 菊川中7つの挑戦

従来の3つのチャレンジ目標

「15メートルのあいさつ」

「15千ページ（年間5000ページ）の読書」

「15分間の黙働（無言清掃）」

に、生徒会執行部とともに考えた4つの目標を加え「菊川中7つの挑戦」と題して、7つの目標を設定した。

- 「菊川中7つの挑戦」
- ①「読書日本一」
 - ②「あいさつ日本一」
 - ③「黙働（無言清掃）日本一」
 - ④「校歌日本一」
 - ⑤「時間厳守日本一」
 - ⑥「整理整頓日本一」
 - ⑦「話し合い活動日本一」

2年 2組 10番 []

No.	読んだ本の題名	作者(筆者)名	読み始め～	読み終わり	本文ページ数	累積ページ数
7	グラツィオーソ	山口なお美	4月26日	5月5日	401	1904
感想	この本は吹奏楽部のお話でした。実は始めの方は私的にはびみょうだったのですが、最後に近づくにつれて、この先はようなるだろうと感じて、とてもワクワクして読んでました。おもしろかったです。③					
8	99のなみたぬ	リングブックス編集部	5月6日	5月15日	754	2158
感想	私は、「ヨンタさん」というお話が好きでした。99のなみたぬとは言っても、今まであまり泣きそうにはならなかったけど、「ヨンタさん」だけは涙がでそうになりました。おもしろかったです。③					
9	ぼくたちと駐在さんの300日戦争⑤	ママチャリ	5月17日	5月29日	365	2523
感想	今回は、駐在さんとは敵とよき仲間(?)みたいな関係のママチャリ(主人公)達かよ、と仲良くなつたよすがが良かったです。なんと！駐在さんに娘が生まれたのです！次はいつ読めるか分からないけど楽しみです！③					

読書活動の記録

(3) 35時間への挑戦

道徳教育の要である道徳の時間を充実させるために、35枚に授業のデザインシートを書くことを目標に、全教員が道徳の時間をローテーションで担当している。これは、教員の挑戦である。

3 成果と課題

(1) 成果

「日本一学びが好きな学校」を3年計画で達成することを、校長が平成23年度の始業式で生徒に宣言した。それと同時に、朝読書の時間や家で読んだ本のページ数を記録することに取り組みさせた。当初難しいと思っていた「年間5000ページの読書」を達成する生徒が出てくると、それに刺激されて読書活動に積極的に取り組む生徒が激増した。5000ページに到達した生徒は全校集会で表彰されることもあって、平成24年度には、全校生徒197名中125名が目標を達成した。大きな達成感を経験した生徒は、挑戦することの楽しさを知り、学校教育目標の実現に前向きに取り組むようになった。毎朝の読書活動が充実し、現在は8時20分（～8時35分）になると全員が着席して読書を行っている。そのことが、落ち着いた学舎の形成につながっている。教員も、全員が教室で生徒と一緒に読書をしている。

また、「立ち止まってあいさつ」が来校者や地域から評価されるようになった。その評価が生徒の自尊感情を育て、新たな意欲につながっている。

さらに、時間厳守や整理整頓を規則ではなく目標として設定することで、教員が生徒を指導する言葉が変わってきた。それは規則を守れないことへの叱責から、目標に挑戦する生徒への承認や励ましへの変化である。この変化が教員と生徒の人間関係を信頼と愛情に満ちたものへと変えた。このことが、生徒の自尊感情を高め、成長することを実感する中で高い自己肯定感の育成を可能にしたと考える。

最後に、教員自身が35枚の道徳の授業のデザインシートを書くという困難な目標に挑戦することで、挑戦することの面白さを再認識し、意欲的に取り組むようになった。それは必然的に道徳教育、とくに道徳の時間の充実につながり、生徒のよりよく生きようとする意欲を育むことになった。

一連の取組による生徒の変容が教員の自信となり、学校教育の質が一層高まり、それが生徒の更なる成長をもたらすようになった。



カバンの向きまでそろったロッカー



活発な話し合い活動

(2) 課題

生徒が高いモチベーションを維持し挑戦を続ける間は、活気と落ち着きが同居した学ぶ環境が保たれると思われる。来年度以降、生徒の状況に合った目標を設定することができるかどうか大きな課題である。

学校評価アンケートや運営協議会の意見を参考にしながら、全校生徒で協議させて決定させることで、より高い目標に挑戦できる学校をめざしたい。

心の教育推進の手引き



- 子どもたちの変化をしっかりと見よう！
 - ・子どもたちが発する心のサインを受け止めよう！
 - ・子どもたちのプラス面を見つける努力をしよう！
- 多くのかかわりで子どもたちの心に寄り添おう！
 - ・子どもたちを多角的・多面的に理解しよう！
- 定期的に子どもたちの実態把握をしよう！
- あらゆる場面が教育相談のチャンス！



- 自分や相手を大切に育てよう！
 - ・相手を思いやる言葉遣いをしよう！
 - ・相手の思いや考えを聞く態度を育てよう！
- 道徳の時間をより充実したものにしてよう！
 - ・道徳の時間の指導方法を工夫しよう！
 - ・ゲストティーチャーを招いて話を聞こう！
- 学級活動・ホームルーム活動を充実させよう！
 - ・日頃から安心して発言できる雰囲気をつくろう！
 - ・自発的、自治的な活動を重視しよう！
- 自分の将来について考える場を設定しよう！
 - ・教育活動をキャリア教育の視点で見直そう！
 - ・将来の夢や目標を声に出してみよう！
- 日々の読書活動を充実させよう！
 - ・本でつながるコミュニケーションを活性化させよう！
 - ・読書の足跡を継続的に記録しよう！
- 障害のある子どもたちと共に学ぶ機会を設けよう！
 - ・子どもの実態やニーズに応じた工夫をしよう！



- 豊かな人間関係づくりに取り組もう！
 - ・お互いの思いを共有することから始めよう！
- 体験活動で豊かなふれあいを充実させよう！
 - ・体験活動充実の視点
 - ・豊かな心を育む体験活動の実践例
 - ・日常での心のふれあい活動
- 子どもたちの主体性を生かした活動に取り組もう！
 - ・具体的行動目標(チャレンジ目標)を立てて実践しよう！
 - ・チャレンジ目標を学校評価に位置付けよう！



5 連携の推進

- (1) 言葉に関わる取組を中心とした幼小中の連携
.....和木町立和木中学校区…68
- (2) 15年間で育てたい秋穂の子ども像
.....山口市立秋穂中学校区…70
- (3) 保育園・小学校・中学校の課題共有
.....萩市立むつみ中学校区…72
- (4) 掃除に学ぶ～小中学校合同によるトイレ掃除～
.....柳井市立大畠中学校区…74
- (5) 小中・保護者(家庭)との連携によるあいさつ指導
.....上関町立上関中学校区…76
- (6) 9年間で子どもたちを育てる共通実践リーフレットの作成
.....光市立室積中学校区…78
- (7) 小中連携による生徒指導の取組
.....防府市立牟礼中学校区…80
- (8) 児童生徒に自信とやる気を育てる
.....阿武町立阿武中学校区…82
- (9) 周南市における生徒指導の水準
.....周南市教育委員会…83

(1) 言葉に関わる取組を中心とした幼小中の連携

和木町立和木中学校区

○ 実践の特徴

幼稚園、小学校、中学校が連携した心の教育の推進

1 昨年度の取組

昨年度から、和木町では幼小中が連携した心の教育推進に取り組んできた。心を育むという大きな目標に向けて、幼小中の教職員が相互に連携し合うことは、初めての取組であったため、大きな一歩となった。その目標に向けて、3つの部会（つながりに関わる部会、規律規範に関わる部会、言葉に関わる部会）に分かれ、ともに1年間連携した取組を行ってきた。

成果としては、幼小中の教職員に、「共に語ろう・共に実践しよう」という雰囲気や連携への熱意が生まれたことである。しかしながら、3つの部会があるということは、取組も3種類あり、幼小中が一体となった重点的な取組が行えなかった。

2 実践のねらい（ねらいの焦点化）

本年度は、重点的な取組が可能となるように、取組を一本化することとした。一本化するにあたって、和木町の子どもの実態から、言葉に関わる取組に限定した。

《言葉に関わる取組のねらい》

①あいさつに関する取組

和木町が長年取り組んできたあいさつ運動の成果として、多くの子どもが進んであいさつをするようになってきている。そこで、和木の子どもたちのよさを生かす取組として、「元気のよいあいさつ」のできる子どもの育成をめざすことにした。

②言葉づかいに関する取組

日常の言葉遣いにおいては、自分本位な考えから、心ない言葉のやり取りが見られ、その結果、人間関係を悪化させていることが見受けられる。人間関係の基盤である言葉遣いを見直すことで、「思いやりのある言葉遣い」のできる子どもの育成をめざすことにした。

3 研修計画

平成 24 年度研修計画

月	運 営	研修内容
4	和木町校長会	本年度研修の方向性確認
4	第1回合同主任会	部会の一本化（言葉）決定
5	和木町教職員総会	全職員へ今年度の取組説明
6	第1回合同研修会	実践への思いの語り合い
7	第2回合同主任会	共通取組事項決定（計画書）
8	夏季教職員研修会	今後の取組の共通理解
10	第3回合同主任会	実践状況の確認
12	第4回合同主任会	実践状況の確認
1	第2回合同研修会	今年度の取組の反省
2	第5回合同主任会	来年度の方向性の確認

※合同主任会の構成（教務主任、研修主任、生徒指導主任、連携担当）

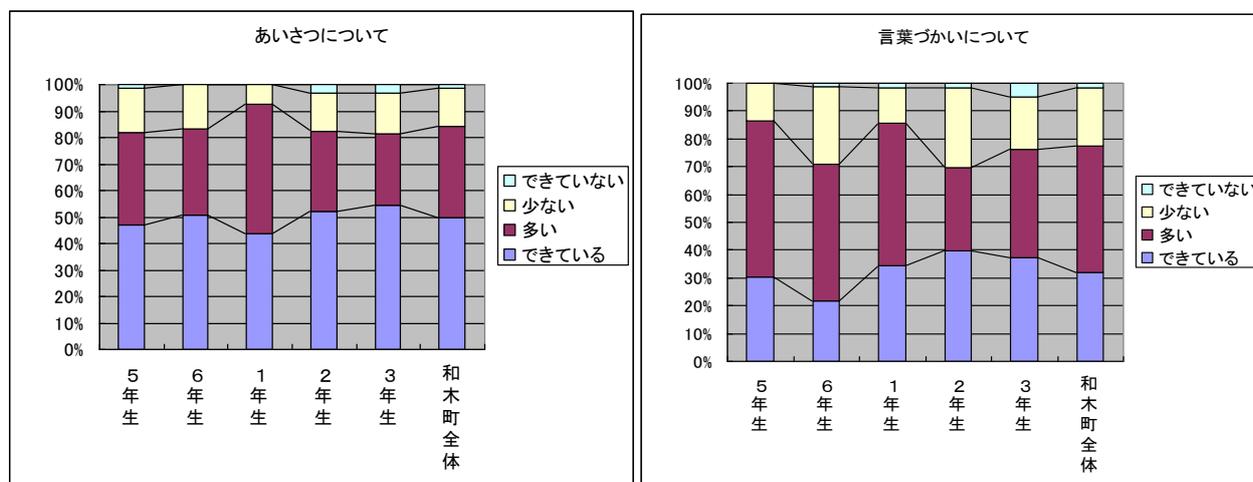
幼小中の教職員が、大きな目標に向けて取り組むためには、その実践を支えるミドルリーダーを中心とした企画部会が必要となる。そこで、幼小中のミドルリーダーが共に集まり、連携した取組が可能となるように合同主任会を開催するようにしている。

今年度は、合同主任会を5回開催し、スモールステップで取組状況の確認を行い、言葉への取組がチェックできるようにする。合同主任会と幼小中の教職員が参加する研修会とを効果的に組み合わせることで、日々の言葉への取組を活性化させたい。

4 実践の内容

① 言葉に関するアンケートの実施

第1回合同主任会で、子どもの実態把握のため、アンケートを行うことにした。対象は、5年生以上の児童生徒とした。



アンケート結果からも分かるように、あいさつについては、どの学年も「できている・できていることが多い」は8割以上に達している。しかしながら、言葉遣いについては、学年によって大きな差があり、一貫した取組の必要性がうかがわれる。このアンケートは今後も継続して行い、児童生徒の変容について把握していく。

② 幼小中が共通して取り組む内容

6月15日に行われた幼小中合同研修会において、小グループごとに言葉についての共通実践を話し合った。

【先生方から出された意見】

ア 元気のよいあいさつに向けた取組案

- ・「あいさつの町 WAKI」というキャッチフレーズ（目標）の設定
- ・保護者への啓発（家庭内でのあいさつの重要性）
- ・あいさつ+1運動（時間の区切りとあいさつをセットに）
- ・小中あいさつ運動（小が中へ中が小へ行ってあいさつ運動を行う）
- ・アンケートの定期的な実施
- ・大人（教職員）が率先したあいさつ運動

イ 思いやりのある言葉遣いに向けた取組案

- ・「いい言葉の日」を町全体の取組へ（保護者地域への浸透を図る）
- ・言葉遣いに関するアンケートの継続実施
- ・清掃活動から心を磨き、言葉遣いへと発展
- ・異学年や異校種での交流を深め、豊かな体験を積み重ねる
- ・家庭との連携
- ・教師の側の共通理解
- ・言葉の力を育む（読書活動の充実）

※ これらの意見をもとに第2回合同主任会において、共通実践事項を決定する。さらに、実施計画書を作成し、全教職員が計画書をもとに実践を行う。

今後は、成果と課題について合同主任会を中心として、スモールステップで確認し取組の修正を加えながら実践を深めていきたい。

(2) 15年間で育てたい秋穂の子ども像

山口市立秋穂中学校区

○ 実践の特徴

秋穂地域協育ネットとの連携と幼保小中のつながり

1 実践のねらい

秋穂地域には、家庭教育や人権学習等の講座を地域と学校が連携して実施し、地域ぐるみで教育を推進する「地域協育ネット」が整備されている。平成25年度からは、小・中学校に幼稚園や保育園を加えたつながりに目を向け、自立する子どもの育成をめざし、義務教育が終了する15年間の育ちと学びをみんなで支援する活動が行われている。

2 実践の内容

- (1) 小中共通の実践項目を掲げ、一緒に取り組む。
- (2) 情報交換を密にし、幼保小中の接続を図る。
- (3) 交流により子どもたちとの人間関係づくりに努める。

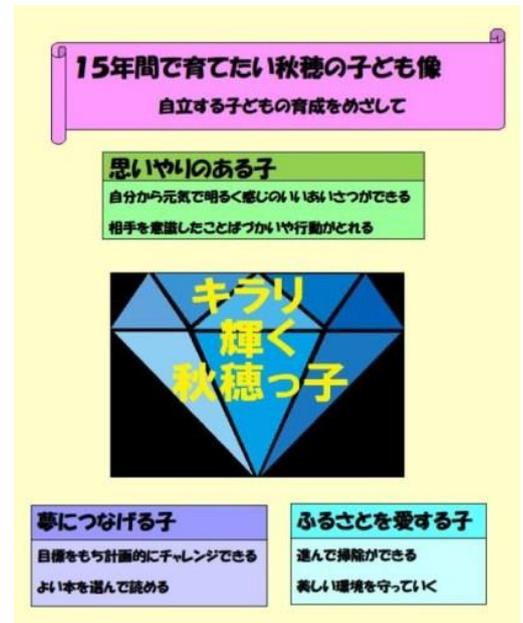
3 成果と課題

(1) 共通実践項目

秋穂地域では、めざす子ども像として「キラリ輝く秋穂っ子」を掲げ、「①思いやりのある子 ②夢につながる子 ③ふるさとを愛する子」の3つの視点から、自立する子どもの育成をめざした取組を行っている。

中でも「①思いやりのある子」では、第一に「自分から元気で明るく感じのいいあいさつのできる秋穂っ子」をあげている。この目標は、「自分から」は保育園・幼稚園、「元気で」は小学校下学年、「明るく」は小学校上学年、「感じのいい」は中学生向けに設定し、発達段階に応じた指導を地域全体で取り組んでいこうという意味が込められている。中学校では「感じのいいあいさつ」についてソーシャルスキルトレーニングを行い、地域でのあいさつの評価も高まっている。両小学校でもあいさつ運動に力を入れ、成果が現れている。

また、小中共通の学習規律や生活規律に関わる実践項目を、次のとおりプリントにして秋穂中学校区の全保護者や地域の青少年の育成に関係する方々に配付している。2年目になる今年は保護者・地域の方々の理解も深まり、ともに育てていこうという意識が高まってきている。現在、右上の図のポスター化を図り、より地域とともに子どもたちの育成に関わっていきたいと考えている。



「秋穂小・大海小・秋穂中で一緒に取り組むこと」

<学習指導面>

【学習規律】

- ・机上に必要な学習用具を準備する。
- ・チャイムが鳴ったら席に着く。
- ・服装を整える。

【授業中】

- ・正しい姿勢で取り組む。
- ・話を聞くとときは話をしている人の方に顔を向けて聴く。
- ・指名されたら「はい」と返事をして立ち、発表する。
- ・板書事項は速く丁寧に書く。
- ・始めと終わりのあいさつは、大きな声です。

【家庭学習】

- ・まず宿題をする。
- ・自主学習や読書をする。
- ・その日に学習した教科の復習をする。
- ・予習の必要がある教科の学習をする。



「秋穂小・大海小・秋穂中で一緒に取り組むこと」（保護者向け配付資料より参照）

<学校生活>

【あいさつ・礼儀】

- ・自分から元気で明るく感じのいいあいさつをしましょう。
- ・会話をするときは、相手の目を見て聞き、周りの状況を判断した声の大きさと話しましょう。
- ・正しい言葉遣いをしましょう。（目上の人には敬語が使えるようになりましょう。）

【身だしなみ】

- ・決められた制服を着用し、名札を付けましょう。
- ・学校生活にふさわしい髪型や身だしなみにしましょう。（染髪、パーマ、眉等、特殊な加工をしない。目にかかる前髪、肩にかかる髪は目立たないピンやゴムでとめる。）
- ・正しい着こなしをしましょう。（制服・体操服ともシャツをズボン、スカートに入れる。ボタンをきちんととめる。）
- ・靴をきちんと履く習慣をつけましょう。（かかとを折って履かない。）

<家庭生活>

- ・宿題はきちんとしましょう。
- ・夜間の外出や外泊をしないようにしましょう。
- ・自分の役割を決めて手伝いをするようにしましょう。
- ・テレビやゲームは家庭での約束を守り、学習時間との両立を図りましょう。
- ・携帯電話やパソコンのインターネットの使用にあたっては、家庭でルールを決め、約束を守りましょう。
- ・早寝、早起き、朝ご飯を実行しましょう。

<地域生活>

- ・地域の一員という自覚をもち、ボランティア活動や地域の行事に積極的に参加しましょう。
- ・公共の場（学校、地域交流センター、スーパーマーケット、駐車場等）を使用するマナーを守りましょう。（飲食しない、ゴミを散らかさない。）
- ・カラオケボックスやゲームセンターには、子どもだけで出入りしてはいけません。
- ・法律に反れる行為は絶対にしてはいけません。（万引き、喫煙、飲酒、薬物等）
- ・交通ルールを守り、安全な生活を心がけましょう。（自転車の二人乗り、並進等はしない。）
- ・危険な場所に入出入りしてはいけません。（ため池、人気のないところ、工事現場等）
- ・危険な遊びをしてはいけません。

(2) 幼保小中の連携

幼保小間及び小中間において、合同研修会や相互授業参観などで交流を図り、情報交換などを密に行っている。少しずつ連携やつながりが生まれているが、個々の教職員間での連携を深めていく必要がある。

<幼保小連携事業>

【幼保小連携推進連絡会】

- ・第1回「研究主題と事業計画」
- ・第2回「保育参観」
- ・第3回「情報交換と本年度の反省」

【幼保小中合同研修会】

- ・秋穂協育ネット小中合同研修会（幼保も参加）

【幼保小相互授業参観】

- ・年6回実施

【幼保小交流事業】

- ・年2回実施

<小中連携事業>

【小中連携推進連絡会】

- ・第1回「小中連携計画づくり」
- ・第2回「生徒指導合同研修会」
- ・第3回「教務主任会」
- ・第4回「主任レベル合同研修会」
- ・第5回「特別支援担当者連絡協議会」
- ・第6回「教頭による次年度行事調整」
- ・第7回「校長での年間の振り返りと次年度の計画」

【中学校教員による小学校での授業】

- ・隔週水曜日に数学教員が小6算数授業を行う

【小中相互授業参観】

- ・年6回実施

【小中交流学習】

- ・小中合同学校保健委員会

(3) 交流による人間関係づくり

中学校では地域と連携したクリーン作戦や、あかちゃんふれあい体験、老人ホームへの施設訪問、独居老人へのお弁当作りなど地域の方々の協力を得ながら、世代間の交流を図り、心を育てている。また、両小学校でも秋穂地域協育ネットを活用し、学習支援ボランティアとして家庭科などの実習授業に関わってもらうなど、人間関係づくりを推進している。今年度、中学校から保育園に家庭科で実習に出向くが、今後さらに、幼保小中間での交流を深めていくことが重要な課題の一つだと思ふ。



(3) 保育園・小学校・中学校の課題共有

萩市立むつみ中学校区

○ 実践の特徴

保育園、小学校、中学校が生徒指導の課題を共有し、課題解決に向けて連携して取り組む実践

1 実践のねらい

年数回程度の保育園、小学校、中学校の生徒指導担当者の会議等を実施し、そこで得られた課題を共有して解決に向けた共通実践を行うとともに、相互が果たすべき役割などを認識する中でお互いの理解を深め、不登校やいじめをはじめとする問題行動等の未然防止に資する。

2 実践の内容

(1) 本校生徒の課題の共有化

中学校にて実施した生徒指導アンケート等からみられる本校生徒指導上の課題を保育園や小学校へ情報提供することにより、課題の共有を行った。課題を提示する中で、「保育園や小学校でも同じです」などの意見が聞かれ、保育園、小学校、中学校との連携の重要性が確認できた。

年間の主な流れ

- 1 学期：年度初めの担当者の打合せ、情報交換
- 2 学期：3者が連携して取り組む実践の検討
- 3 学期：今年度の反省及び来年度の進め方の検討

【ねらい】

- ・本校生徒の現状を積極的に保育園、小学校へ知らせる。
- ・課題解決の方法を検討して何らかの実践を行う。
- ・実践の評価を行い次年度に生かす。

やります。トレーニング

- 1 大きな声で自分からあいさつができる生徒
- 2 **他人のアドバイスを素直に聞き入れ、しんどいことでも積極的に取り組み、最後までやり遂げる生徒（継続は力なり）**
- 3 「はい」「いいえ」「分かりました」「分かりません」の意思表示がはっきりできる生徒
- 4 提出物や宿題を大切にしている生徒
- 5 将来の夢が語れる生徒 **（夢は希望をくれる）**

むつみ中学校の現状 課題 23年度末評価

- 1 **元気がない**
大きな声で自分から進んであいさつができる生徒が少ない。
近年改善傾向ではあるが、できない生徒も多い。特に「自分から進んで」ができない。
- 2 **頑張れない**
しんどいなど感じたことは、やろうとせず、やらない。継続しない。
部活動など成果が出てきた場面もある。人のアドバイスを素直に聞き入れ、継続して頑張れる生徒に育てたい。
- 3 **意思表示が分からない**
はっきり「はい」「いいえ」「分かりました」「分かりません」と言えない。
ももごとししゃべる、うなずきだけの返事の対応をよく見かける。その都度指導したい。
- 4 **提出物がいい加減**
期限のある提出物などがルーズ、ものをよくなくす。宿題をやらない。
家庭学習の習慣は改善傾向（チェックもあるので）。何のためのチェックかなどを考えさせる場面を増やしたい。
- 5 **将来の夢などをイメージできない**
「とりあえず高校に行つて考えます。」という生徒が多い。
キャリア教育の視点で中学校3年間を意識させることを全教職員が徹底して指導することにより変化させたい。

(2) 保育園・小学校・中学校での共通実践

○ 「むつみっ子のあいうえお」

保育園、小学校、中学校で同じ掲示物を掲示して毎日の生活のめあて等に活用する（平成23年度2学期から実施しており、定着に向け平成24年度も継続して実施している）。

○ あいさつ啓発用横断幕の作成、掲示

平成24年度3学期から保育園、小学校、中学校で同じ掲示物を掲示して、地域の方へあいさつをすることを意識させている。



「むつみっ子のあいうえお」

あいての目を見て

いっしょうけんめい

うなずきながら

えがおで

おわりまで

むつみ保育園、むつみ小学校、むつみ中学校では、たくましいむつみの子を育てる育成のために共通の指導事項キーワードを定め、「むつみっ子のあいうえお」として、共通指導を行うことになりました。

成長過程、場所、時の違いに合わせて様々な場面で「むつみっ子のあいうえお」を意識しながら子どもたちの諸活動ができてきました。

平成二十三年九月一日

3 成果と課題

保育園、小学校、中学校の共通する課題として、「自分からあいさつができていない」「声が小さい、人の話を最後まで聞けない」といった点が挙げられる。そこで「むつみっ子のあいうえお」標語などで呼びかけ、園児・児童・生徒への意識付けを行った。また、中学校の制作した啓発用横断幕を各校で掲示することにより、地域の方へのあいさつを意識させることにした。

その結果、むつみ地区民生委員さんの会合で、「昨年より元気のいいあいさつができています」との意見も頂くようになった。

しかし、この取組は始まったばかりで、まだまだ不十分な点も見られる。今後は、児童会や生徒会の活動を通して自主的・継続的な取組へと高めていきたい。

(4) 掃除に学ぶ ～小中学校合同によるトイレ掃除～

柳井市立大畠中学校区

○ 実践の特徴

中学校で実施している素手によるトイレ掃除を、中学生が小学生に指導する形で合同実施する実践

1 実践のねらい

- (1) 中学校で実施している素手によるトイレ掃除の取組を、自分の母校である小学校や、普段お世話になっている地域の公共施設で実践することにより、母校や地域への感謝を表す。
- (2) 小中学校間の連携を深めるとともに、小中学校の児童・生徒がともに活動することにより良好な人間関係を築く。

2 実践の内容

本校では、5年前から「掃除に学ぶ」活動として、素手によるトイレ掃除を行っており、これまで、総合的な学習の時間の一環として有志グループによる公共施設のトイレ掃除を行ってきた。本年度はその取組を全校生徒に広げるとともに、さらに小中連携の取組の一つとして、中学生と小学生が合同でトイレ掃除に取り組むよう企画した。

(1) 中学校でのトイレ掃除の意義の再確認と全校縦割り班によるトイレ掃除の実践(10月)

- ① 全校道德の時間に、掃除の意義について話し合う。
- ② 掃除は環境を整えるだけでなく、自分の心も磨くことを確認する。
- ③ 1～3年の縦割り班で校内の全トイレの掃除を実施する。



全校道德の様子



班別話し合い



掃除の意義を発表



トイレ掃除の実践



(2) 校区の3小学校および公共施設でのトイレ掃除の実践(11月)

- ① 全校生徒を出身小学校等により5班に分け、小学生とトイレ掃除を行う。
- ② その際、中学生が小学生にトイレ掃除の仕方を指示し、合同で掃除を行う。
- ③ 掃除後、お互いの取組を振り返り、お互いの頑張りを認め合う。



対面式の様子



小中学生合同でのトイレ掃除の実践



掃除終了後の振り返り



駅での掃除風景

3 成果と課題

(1) 成果

- ・掃除を合同で実施することにより、小中学校の教職員の連携が進んだ。
- ・中学生が小学生に掃除の仕方を教えたり、地域の公共施設のトイレをきれいにしたりすることができ、平素の活動に自信と誇りをもつことができた。
- ・小学生にとって身近な先輩への尊敬と中学校への親しみを感じる機会となった。

(2) 課題

- ・企画から準備・実施に向けて学校間や公共施設間との十分な打ち合わせが必要である。
- ・活動が一過性のものになることなく、他の様々な教育活動を通してさらなる小中学校間の連携を深めていくことが必要である。

(3) 児童・生徒の感想から

<生徒>

- ・自分たちの母校をきれいにできてとてもよかった。小学生も最初はためらっていたけれど、きれいにしていくうちに熱心になり、掃除をする楽しさを知ってくれてとてもいい経験になった。
- ・今回は下級生との共同作業だったので、手本として動こうと思いました。前回の合同道徳よりずっとがんばりました。
- ・やっぱりトイレがきれいになると気持ちがいいし、小学生もその気持ちがわかってくれた気がします。
- ・駅のトイレはきれいだったけど、目に見えない所の汚れをきれいにするのは大変だった。みんなトイレに手を入れて磨いていたのでとてもスムーズにできた。
- ・みんなで協力して地域して地域のトイレをきれいにして気持ちよかった。元から結構きれいだったけどもっときれいになるようにがんばった。トイレをきれいにして人のために働けたらと思います。

<児童>

- ・中学生が素手でいやがらずにやっていたのでびっくりしました。最初は「気持ち悪いな」と思ったけど、勇気を出してやってみるとどんどんきれいになっていくのでやりがいがありました。後半は自分から進んで仕事を見つけることができました。
- ・私は、はじめ素手やはだしですることがすごいと思いました。そしてこんなに汚れているんだとびっくりしました。慣れてきたらとても楽しかったです。きれいになったときはとても気持ちよかったです。中学生のみなさん、今日は優しく教えてくださってありがとうございました。
- ・中学生の姿をみてがんばってやろうという気持ちになりました。細かいところをきれいにできて雰囲気明るくなってよかったです。またやりたいと思いました。



(5) 小中・保護者(家庭)との連携によるあいさつ指導

上関町立上関中学校区

○ 実践の特徴

小中9年間でめざす具体的生活目標「いわい・かみのせきAJS」(あいさつ・時間・掃除)の設定

いわい・かみのせきAJS

(上関中、上関・祝島小 段階別共通目標)

1 実践のねらい

本町では、平成19年度から小中一貫教育の研究を進め、平成22年度に「あいさつ・時間・掃除」の3項目について、小中9年間でめざす具体的生活目標「いわい・かみのせきAJS」を設定し、各校で掲示等を行い、同一歩調で取り組んできた。

平成23年度からはその具現化、具体化に努め、特にA(あいさつ)を重点的に指導している。

	A あいさつ	J 時間	S そうじ
中3	時と場に応じたあいさつをする	時間を意識して行動し、1分前には着席する	進んで掃除を行う
中2			
中1			
小6	笑顔で気持ちよくあいさつをする	学習準備をし、授業前には着席する	下級生にそうじの仕方を教える
小5			
小4	進んで大きな声であいさつをする	時計を見て席に着く	一所懸命そうじをする
小3			
小2	大きな声であいさつをする		
小1		先生の指示で席に着く	そうじの仕方を覚える

2 実践の内容

(1) AJSアンケートの実施

児童・生徒のあいさつへの意識化を図るため年2回実施(1回目は1学期末、2回目は1月上旬)した。また、啓発の意味もあり、保護者向けアンケートも実施した。

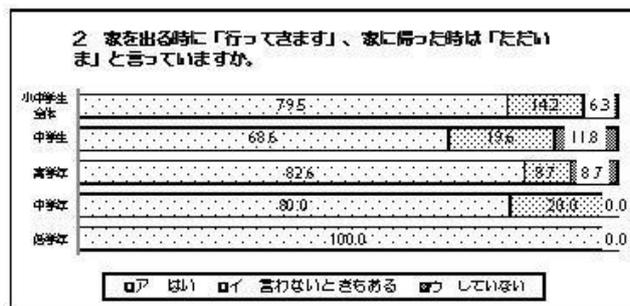
＜アンケート項目(児童・生徒用)＞

- 1 おうちの人に、朝は「おはよう(おはようございます)」、寝る前には「おやすみ(おやすみなさい)」とっていますか。
- 2 家を出る時に「行ってきます」、家に帰ったときに「ただいま」とっていますか。
- 3 家で、ごはんを食べる前に「いただきます」、ごはんを食べ終わったときに、「ごちそうさま」とっていますか。
- 4 登下校中、出会った人とあいさつをしていますか。
- 5 先生に対して「おはようございます」、「さようなら」と自分から言っていますか。
- 6 学校にお客さんが来られたときには、あいさつをしていますか。
- 7 A(あいさつ)JSのめあてを心がけています。
 - 小1・2 →大きな声であいさつをする
 - 小3・4 →進んで大きな声であいさつをする
 - 小5・6 →笑顔で気持ちよくあいさつをする
 - 中1・2・3 →時と場に応じたあいさつをする

＜アンケート項目(保護者用)＞

お子さまは、ご家庭であいさつができていますか。

- 1 朝は「おはよう(おはようございます)」、寝る前には「おやすみ(おやすみなさい)」
- 2 家を出る時に「行ってきます」、家に帰ったときに「ただいま」
- 3 ごはんを食べる前に「いただきます」、ごはんを食べ終わったときに、「ごちそうさま」
- 4 近所の方々やお客様に対して「こんにちは」
- 5 日頃、お子さまのあいさつについてどのように感じていますか。自由にお書きください。(自由記述)



(2) AJSアンケート（後期）の集計結果の考察

- 「行ってきます」「ただいま」等のあいさつや出会った人へのあいさつはよくできている（7～8割達成）。
- 「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ごちそうさま」等、家庭でのあいさつは5～6割程度しかできていない。
- 先生やお客さんに対して、自分からのあいさつは5～6割程度しかできていない。
- あいさつのめあて（継続指導項目）の段階が上がるに従って、達成度が下がっている。
- 家族へのあいさつはできるが、他人へのあいさつが恥ずかしがってできないことがある。大きな声、元気よくは言えていない。形式的なあいさつはできるが、心のこもった気持ちのよいあいさつはできない。意味を理解させたい。（自由記述より）

(3) AJSのA（あいさつ）についての取組実践アンケートによる児童・生徒の実態を踏まえ、3校それぞれが、次のような方法で継続的にあいさつについて重点的な指導を進めた。



- ・あいさつ運動期間の設定
- ・正門、玄関、通学路等での指導の実施
- ・集会時などでの呼びかけ
- ・学級活動や道徳（内容項目2-（1））での話し合いや指導
- ・運動会や遠足・職場体験活動等の行事に関連させての指導
- ・学校だより等での家庭へ「あいさつ」についての指導の喚起
- ・地域の方への協力依頼

3 成果と課題

(1) 成果

各校でのあいさつ運動、道徳や学活による指導、朝会での話、地域の方への協力依頼を行うなど、A（あいさつ）の重点的な指導を行った結果、あいさつの意義を理解し、実行しようとするなど、あいさつについての意識を高めることができた。

また、2回のアンケートを実施することにより集団としての傾向を捉え、その後の取組にも反映させることができた。特に保護者へのアンケートを実施して、家庭でのあいさつの状況を把握するとともに、あいさつについて家庭で改めて考える機会とすることができた。さらに、「あいさつ・時間・掃除」の3項目について、小中9年間でめざす具体的生活目標「いわい・かみのせきAJS」について理解してもらうこともできた。

(2) 課題

児童・生徒のあいさつに対する意識は高まったものの、まだ、声が小さかったり、自発的に意識して行うという点が十分でなかったりといった課題が見られる。

これからも、あいさつをすると「気持ちがいい」「より親しくなれる」「元気になる」「相手の気持ちが分かる」といった意識付けや「大きな声で」「自ら進んで」「笑顔で」「丁寧に」「誰にでも」あいさつをするという行動を、繰り返し指導していく必要がある。そして、あいさつだけでなく、日常の言葉遣いにも意識を広げ、会話の広がりから、あいさつの気持ちよさが感じ取れるように実践を進めたい。

(6) 9年間で育てる「むろづみ大好きっ子作戦」

光市立室積中学校区

○ 実践の特徴

9年間で子どもたちを育てる共通実践リーフレットの作成

1 実践のねらい

学校・家庭・地域が一体となって9年間で育てていくという視点に立った「3つの育てるワード」を共通実践事項として、互いに見守りながら指導することで、望ましい生活習慣を身に付け、郷土愛にあふれた豊かな人間性と社会性をもった人材を育成する。

2 実践の内容

昨年度、室積地区小中連携推進委員会（「学力向上・授業研究（連携授業）部会」「交流推進部会」「特別支援部会」「生徒指導部会」）を発足させ、9年間で児童・生徒を育てるために共通して指導する内容を協議した。生徒指導部会では、児童・生徒の気になる点は、教師や家族から指示されたことはできるが、自分で考えて行動することが少なく、また臨機応変に対応する力が不足しているとの結論に至った。

この力を補うために、まず自分の生活や行動に自信がもてる生活習慣を確立することが必要であり、そのために、小中9年間を通して、確実に身に付けさせる基本的な生活習慣を共通理解させたいと考えた。下足箱への靴の入れ方、授業時のあいさつの仕方、職員室の入り方、掃除の仕方など小中それぞれに様々な決まりがある中で、キーとなったのは「あいさつ」「整理整頓」「感謝の気持ち」であった。中学校として以前から感じていた例として、本校生徒は下足箱の靴の整頓ができており、靴のかかところがきちんと揃っている。また、列の先頭へプリントを配布した際、会釈をしながら「ありがとうございます。」と誰もが言える。これは入学時からできている行動様式である。まさに小学校からの財産である。そこで、以下の3点を学校（小中）・家庭・地域連携のキーワードとして掲げ、共通実践項目とした。

この内容を家庭や地域においても同一歩調で指導し、地域をあげての取組とするために、これを「むろづみ大好きっ子作戦」と称し、次ページのリーフレットを作成して、小中学生の各家庭と地域全戸に配布し、啓発活動を行った。

子育てのあい言葉 「3つの育てるワード」

- ・ **そろえる** …… はきものやカバンなど荷物をだまって「そろえる」
- ・ **伝える** …… 笑顔であいさつ・返事、正しい言葉づかいで、心を「伝える」
- ・ **感謝する** …… ありがとうの気持ちで、ものを大切に、いつも「感謝する」

3 成果と課題

本年度、チャレンジ目標として設定した3つの育てるワード「そろえる・伝える・感謝する」は、生徒達が常に意識して生活するよう全教職員が様々な場面で指導する際に活用している言葉である。この成果が現れてきている場面が清掃活動である。感謝の気持ちをもって熱心に取り組むことができるようになり、無言清掃も定着してきた。また、下校時には、校門で振り返って校舎に向かって一礼をし、「ありがとうございました。」と元気な声で多くの生徒が感謝の気持ちを表現している。

この「むろづみ大好きっ子作戦」により、校内の生徒の様子は確実に変容している。しかし、地域にリーフレット等でも啓発しているが、地域での児童・生徒の変容を把握する手だてが現在のところ不透明で、今後、取組の検証・修正に生かすことが難しい。また、今年度始まったばかりであるこの取組が、地域に根付いた息の永い取組となるために、コミュニティ・スクールの取組の推進が重要な鍵となってくる。

しっかり学び、むろづみ大好きな子どもたちを育てましょう!

むろづみ♥大好きっ子

作戦

家庭

学校

みんなのとりぐさ

笑顔で
あいさつ・返事
正しい言葉づかい
はきものをそろえる
ものを大切にする
いつも
「ありがとう」

むろづみ
まち

はきはき

むろづみ

笑顔

あいさつ

子育てのあい言葉 3つの育てるワード

むろづみ地域

コミュニティ・スクールとして出発!

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

室積中学校 (H25.4～)・室積小学校 (H26.4～)

室積まちぐるみ協議会・室積小学校・室積小PTA・室積中学校・室積中PTA

(7) 小中連携による生徒指導の取組

防府市立牟礼中学校区

○ 実践の特徴

1小1中という特色を生かし、9年間を見通した生徒指導の実践

1 実践のねらい

今年度の本校の生徒指導目標は、「規律の徹底」と「正義感の育成」である。その目標を達成するためには、中学校入学後の指導だけでなく、小学校からの共通した指導が不可欠なものである。本学区は1小1中であり共通実践が行いやすい環境にある。そのため今年度より、牟礼小中学校全教職員により構成される、生徒指導部会・学習指導部会の2つの部会を設けて小中連絡協議会を開き、9年間を見通した共通実践を検討することにした。

2 実践の内容

2つの部会を次のように分野分けし、夏季休業中に共通実践事項の検討会を行った。

生徒指導部会…… ①挨拶・言葉遣い・服装 ②掃除・整理整頓 ③正義感育成
学習指導部会…… ①授業規律 ②家庭学習 ③学力向上

まずは、分野別に小中学校それぞれの現状と課題を出し合った。生徒指導に関する主なものは以下のとおりである。

<小学校>

- ・精神的に幼い児童が多く、目上の人に対して友達言葉で話す傾向がある。
- ・掃除の時、指示されたこと以上のことが自主的にできない傾向がある。
- ・嘘をついたり、人の物を隠したりすることがある。
- ・少数ではあるが、授業規律が守れない児童がいる。

<中学校>

- ・シャツを出したり、スカートが短くしたりとだらしない服装の生徒がいる。
- ・掃除の時に私語が多いなど無言清掃が実践できておらず、指示待ちの生徒が多い傾向がある。
- ・言い訳をしたり、人のせいにしたりする生徒の割合が多いなど、素直に過ちを認めることができない傾向がある。

これらの現状と課題を踏まえて小中学校で共通して実践していくことを検討した結果、以下の事項を共通して指導することになった。

- ・児童の発達段階に応じる必要があるが、高学年では目上の人に敬語を使うことを指導する。
- ・掃除を無言で行うよう指導する。
- ・掃除の時に全ての指示を教師が出すのではなく、どうすれば効率的にきれいにできるかを児童生徒自身に考えさせる。
- ・ささいな服装の乱れを見逃さずに指導する。
- ・不正には毅然とした態度で対応し、「正義感」について考える場面を設定するなど、心の育成に力を入れる。
- ・2分前着席1分前黙想を指導する。
- ・「学習のきまり」を作成し、きまりを定着させるために繰り返し指導する。

3 成果と課題

小中学校の全教職員が参加する小中連絡協議会を行ったことにより、お互いに生活習慣や学習習慣の現状と課題を確認し、共有することができた。その上で小学校での取組や、それを受けての中学校での取組も検討することができたことは大きな成果であった。

また、正義感の育成や言葉遣い、学習規律や掃除の方法など、小中学校で共通して指導する事項を決定することができたことは、9年間を見通した生徒指導を行う道筋を明確にできた。今後も各学年の教育目標と指導項目の明確化を図り、9年間の見通しを体系化していきたい。

ただ、この取組は短期間に効果が現れるものではなく、9年間という長期間の実践が行われて初めて意味をもつものである。定期的に共通実践事項の見直しを図り、よりよいものにしていく必要もある。牟礼地区の特色を生かし、粘り強い実践によって規律と正義感を身に付けた生徒を育成していきたいと思う。



(8) 児童生徒に自信とやる気を育てる

阿武町立阿武中学校校区

○ 実践の特徴

解決志向アプローチ（コーチングスキル）に関する小中合同教職員研修会

1 実践のねらい

子どもの自尊感情の育成に向けて、小中合同教職員研修会でコーチングスキルを学ぶ。

2 実践の内容

(1) 小中合同教職員研修会

『解決志向アプローチ』を活用して

山口解決志向アプローチ研究会 代表 清原敏之 氏による講義と演習

(2) 児童生徒へのアプローチの仕方について

① 『問題志向アプローチ』 → 『解決志向アプローチ』

問題が起こったとき、その原因が何なのかを考えさせたり、それを取り除くための方法を指示したりすることが多い。しかし、問題の原因や理由を探るのではなく、児童生徒本人のもっている力を活用して、その解決方法などを考えさせ実行させることが大切である。



② 『傾聴・受容・共感』

「よく聴き」「しっかりと受け止めて」「相手の気持ちに寄り添う」

③ OK メッセージ (う・あ・お、か・み・さ・ま、な・い・す・よ)

うれしいよ、ありがとう、おつかれさま (おかげです、おどろいたよ)、かんしゃします (かんどうしました)、みごとです、さすがです、まねしたくなります、なるほど、いいですね、すごい (すばらしい、すてき)、よかったよ など

④ 言い換えで短所を長所へ

発想を変えて物事を肯定的に言い換えると、マイナスと思えることもプラスに変わる。

(3) 具体的な演習 (ロールプレイ)

2人組になり、【児童・生徒】と【親・先生】の役割を決め、問題志向アプローチや解決志向アプローチのキーワードを活用し、ロールプレイを行った。また、OK メッセージ (ほめる、ねぎらう、認めるなど) や言い換え (短所を長所にする) ロールプレイも行った。

3 成果と課題

この研修を通して、教師が児童生徒に何気なく掛ける言葉の〔重み〕や〔大切さ〕を改めて実感することができた。また、小・中学校の教職員が合同で行ったことにより、小・中学校9年間の継続的な指導を今後も大切にしていける、という気持ちが強まった。



(9) 周南市における生徒指導の水準

周南市教育委員会

○ 実践の特徴

教育委員会が、どの小・中学校においても確実に実践すべき内容を提示し、取組状況評価シートを活用して、生徒指導の改善に努めた実践

1 実践のねらい

この水準は、周南市内すべての小・中学校において、確実に実践すべき内容を提示しており、学校における生徒指導の土台を固めることを目的としている。同時に、形成された土台の上に立ち、児童生徒や地域の実態や特性を考慮し、各学校の実態に合った生徒指導を推進していくことも期待される。

また、生徒指導の推進にあたっては、児童生徒の自己指導能力の育成のため、学校生活のすべての場面において生徒指導を十分機能させること（①自己存在感を与える、②自己決定の場を与える、③共感的人間関係を育成する）が重要であることから、県教委から配付されている「よりよい生徒指導に向けて」を十分に活用するとともに、周南市が提唱している「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」による学習指導と生徒指導を両軸に据えた指導を推進し、学習面と生徒指導面の両面での相乗効果を図るようとする。

2 実践の内容

水準は次の5項目から設定しており、その中でさらに、「学校内でもつべき視点」、「家庭との連携でもつべき視点」、「地域との連携でもつべき視点」、「小中連携の中でもつべき視点」に細分類し、31の小項目を定めている。

この31項目について、取組状況評価シートにより校長が自己評価し、改善に努める。

<5つの項目>

- (1) 基本的な生活習慣を確立する、規範意識を醸成する
- (2) 的確に児童生徒理解をする
- (3) 小さなサインも見逃さず、組織で対応する
- (4) 環境美化により児童生徒を育てる
- (5) 特別活動、部活動を通して主体性を育成する

3 成果と課題

平成25年度に開始した取組であるため、今後検証していく。